

2025年度 彩の国連携力育成プロジェクト (saipe) 14年目の取り組み報告

文部科学省 平成24（2012）年度
「大学間連携共同教育推進事業」



埼玉県立大学



埼玉医科大学



城西大学



日本工業大学



彩の国埼玉県

－ 目次 －

4大学連携教育プロジェクト (saipe) これまでの歩み		
0 4大学連携教育プロジェクト (saipe) これまでの歩みの概略	2	
★ 彩の国連携科目の合意	★ 共同開講の授業形態	3
★ 地域基盤型IPWコンピテンシー (暫定版)	★ ルーブリック (暫定版)	4
★ “彩の国連携科目” への対応科目 (2016当時)、コンピテンシーとの関係		5
★ 共通教材の作成 (例)		
★ 補助期間終了後の“相互協力・連携に関する協定”の締結		6
2025年度 4大学連携教育プロジェクト (saipe) の取り組み		
I 2025年度“大学間連携事業実施体制”(saipeメンバー)	8	
II 2025年度“大学間連携運営連絡会議”の開催実績	10	
III 2025年度“彩の国連携科目”の実施報告		
1. 2025年度“彩の国連携科目”への対応科目と受講者数	12	
2. 4大学で行うIPW演習	14	
1) 2025年度 IPW演習 (緩和医療学)	15	
2) 2025年度 IPW演習 (リハビリテーションと生活空間デザイン)	16	
3. 2025年度“井戸端saipe”と“懇親会”	17	
IV 彩の国連携力育成 (人材育成事業)		
1. 職能団体との意見交換会 (Sai_LUPPs)	18	
2025年度「職能団体との意見交換会 (Sai_LUPPs)」報告	19	
2. 他職種を理解する“IPWカフェ”	20	
2025年度の“IPWカフェ”報告	21	
3. 多職種理解の深化“キャラ化”ワークショップ手法の開発	22	
2025年度“キャラ化”ワークショップの実践報告	24	
4. IPW (多職種連携) ワークショップ (緩和ケアIPW研修会)	25	
2025年度 IPW (多職種連携) ワークショップ (緩和ケアIPW研修会) 報告	25	
V “地域における連携力育成事業”		
1. 2025年度 日工大と宮代町との連携“認知症まちづくり”活動報告	27	
VI “学生交流・共同学習支援”		
1. 2025年度 RFLJ川越2025 活動報告	28	
2. 2025年度 彩の国思春期研究会の活動報告	29	
3. 2025年度 “トークイベント”活動報告	30	
VII 2025年度 4大学におけるIPEトピック		
1. 埼玉県立大学	31	
2. 埼玉医科大学	32	
3. 城西大学	33	
4. 日本工業大学	34	
VII 学術等活動の実績報告	35	

4大学連携教育プロジェクト (saipe)

これまでの歩み

専門職連携教育 (IPE : Interprofessional Education)

複数の領域の専門職が連携およびケアの質を改善するために、同じ場所でともに学び、お互いから学び合いながら、お互いのことを学びあうこと (2002年改訂)

専門職連携実践 (IPW : Interprofessional Work)

複数の専門職がそれぞれの知識と技術を提供しあい、相互に作用しつつ共通の目標達成を利用者とともにめざす協働した活動

※ 英国専門職連携教育推進センター (Centre for the Advancement of Interprofessional Education ; 以下CAIPE) による定義

〇 4大学連携教育プロジェクト（saipe）これまでの歩みの概略

平成24年度（2012年度）に**文部科学省の大学間連携共同教育推進事業の採択**を受け、**埼玉県立大学、埼玉医科大学、城西大学、日本工業大学**の県内4大学、およびステークホルダーとしての**埼玉県**が協定を締結し、「彩の国大学連携による住民の暮らしを支える連携力の高い専門職育成」（**彩の国連携力育成プロジェクト**）に取り組みました。

助成期間中の本取り組み（通称：**saipe**）では、**I 彩の国連携科目の共同開発・共同開講**：4大学が連携した“連携力”育成教育（専門職連携教育：IPE）プログラムの確立、**II 彩の国大学連携による教育システムの構築**：教育及び研究上の人材交流と能力開発、取組内容の理論的評価、取組成果の広報啓発を目指し、彩の国連携科目の確立、大学間連携による共同開講方法の確立、IPEコンピテンシー・ルーブリックの検討などに取り組みました。

助成期間（5年間）終了時には、4大学間および埼玉県との連携を継続し、埼玉県における連携教育と人材育成への継続的・発展的な取り組みについて合意し、「確立した大学間IPEプログラム（彩の国連携科目）の継続と発展を目指した事業（**彩の国連携科目の連携教育に関する協定**）」、「現職者を対象とした連携力育成（IPE）の開発・普及・発展を目指した相互協力による事業（**相互協力・連携による人材育成に関する協定**）」について、再度、5者間で協定を締結しました。

平成24年度 文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」採択

彩の国大学連携による住民の暮らしを支える連携力の高い専門職育成

通称：**彩の国連携力育成プロジェクト**（saipe）



4大学及び埼玉県による協定締結

- ①埼玉県立大学（保健医療福祉関連5学科4専攻）
- ②埼玉医科大学（医学科）
- ③城西大学（薬学科・薬科学科・医療栄養学科）
- ④日本工業大学（生活環境デザイン学科）
- ⑤埼玉県

※ 採択当時の学部・学科等の名称

少子高齢化の進行に伴う在宅医療・介護の需要拡大など、複雑化・多様化する住民ニーズに対応するため、「**地域住民の暮らしの課題を、多職種の連携により発見・解決できる人材**」を、**埼玉県立大学・埼玉医科大学・城西大学・日本工業大学**の4大学および**埼玉県**が連携協働して育成しようとする取組。

I 彩の国連携科目の共同開発・共同開講

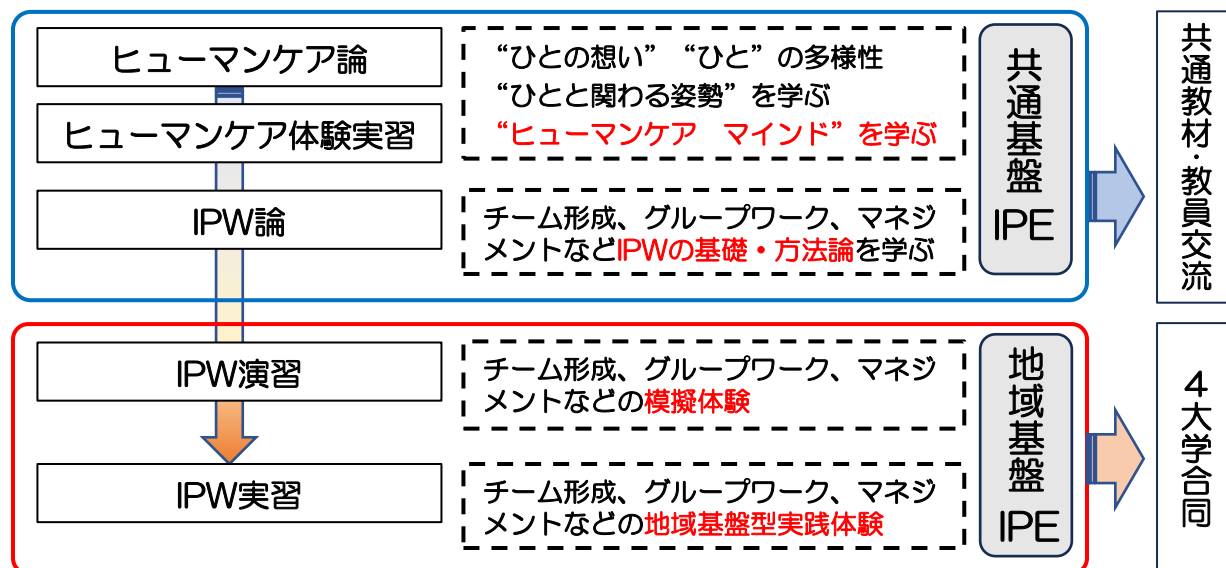
医学・薬学・保健医療福祉・建築分野の大学が連携した専門職連携教育（Interprofessional Education：IPE）プログラムの開発

II 彩の国大学連携による教育システムの構築

彩の国連携科目の持続的な協働展開のための“教育及び研究上の人材交流と能力開発”“取組内容の理論的評価”“取組成果の広報啓発”

★ 彩の国連携科目の合意

“住民の暮らしを支える連携力の高い専門職育成”を目的とした科目の設定として、埼玉県立大学がIPEとして実施している保健医療福祉科目のIPE基幹科目（5科目：ヒューマンケア論、ヒューマンケア体験実習、IPW論、IPW演習、IPW実習）を基盤として検討し、共通理解しました。そして、この5科目を“彩の国連携科目”として設定することで合意しました。



★ 共同開講の授業形態

- (1) 4大学の学生が同じ場で共に学ぶ、4大学教員による共同授業
⇒ ヒューマンケア論、ヒューマンケア体験実習
- (2) 各大学の学生が各大学においてIPEの共通教育目標のもと、共通教材を使用して学ぶ、4大学教員による共同授業
⇒ ヒューマンケア論、IPW論
- (3) 各大学の学生が各大学においてIPEの共通教育目標のもと、共通教材を使用して学ぶ、各大学の教員による授業
⇒ IPW演習、IPW実習

“彩の国連携科目”の共同開講の授業形態を検討するなかで、

- ・4大学が遠方に位置すること（地理的問題）
- ・各大学の時間割変更が容易ではないこと（時間割の問題）
- ・埼玉県立大学以外の3大学で彩の国連携科目としての同一名称の科目新設は困難であることなどの状況から、彩の国連携科目（5科目）すべてを4大学の学生および教員が一堂に会して共同開講することは困難と判断されました。一方、埼玉医科大学や城西大学では、「彩の国連携科目の教育内容は、既存科目の教育においてもなされていることが多いこと」から、この2大学の既存科目内に彩の国大学連携科目の教育内容を組み込む授業形態を検討しました。ただ、日本工業大学では、ほぼ連携教育に関する科目が存在しないことから科目の新設が検討されました。

各大学の既存科目内に彩の国大学連携科目の教育内容を組み込む運用については、彩の国連携科目の4大学共通の教育目標（コアとなる目標）・教育教材・教育方法・評価指標等を整備したうえで、上記3つの共同開講の授業形態で“彩の国連携科目”を運用することを決定しました。

★ “彩の国連携科目” への対応科目（2016当時）、コンピテンシーとの関係

	科目名	大学	学年	時期	選択必修	教育の場	コンピテンシー				
							ヒューマンケア	コミュニケーション	専門性	チーム形成	省察
ヒューマンケア論	① ヒューマンケア論	埼玉県立大学	1年	前期	必修	学内	△	△	△	△	△
	② フレッシュマンセミナー	城西大学	1年	前期	必修	学内					
	③ フレッシュマンゼミⅠ、Ⅱ	日本工業大学	1年	前期	必修	学内					
	④ 社会医学	埼玉医科大学	1年	通年	必修	学内					
ヒューマンケア体験実習	⑤ ヒューマンケア体験実習	埼玉県立大学	1年	集中	必修	地域	△	△	△	△	△
	⑥ ケア空間体験実習	日本工業大学	1年	集中	選択	地域					
	⑦ 薬学概論(早期体験実習)	城西大学	1年	前期	必修	地域					
	⑧ 臨床入門実習1	埼玉医科大学	1年	後期	必修	地域					
	⑨ 臨床入門実習2	埼玉医科大学	2年	集中	必修	地域					
IPW論	⑩ IPW論	埼玉県立大学	2年	前期	必修	学内	△	△	△	△	△
	⑪ 医学概論(地域基盤型IPW論)	埼玉医科大学	3年	集中	必修	学内					
	⑫ ユニバーサルデザイン論	日本工業大学	2年	後期	選択	学内					
	⑬ 臨床入門実習2	埼玉医科大学	2年	集中	必修	地域					
	⑭ 臨床入門実習3	埼玉医科大学	3年	集中	必修	院内					
IPW演習	⑮ IPW演習	埼玉県立大学	3年	後期	必修	学内	△	△	△	△	△
	⑯ IPW演習(緩和医療学)・医学概論	★城西大学 埼玉医科大学 埼玉県立大学 日本工業大学	3年 4年	集中	選択	学内					
	⑰ IPW演習(リハビリテーションと生活空間デザイン)	★日本工業大学 埼玉県立大学	2年	後期	必修・選択	学内					
	⑱ 医学概論	埼玉医科大学	3年	集中	選択・選択必修	学内					
IPW実習	⑲ IPW実習①・課外学習プログラム	★埼玉県立大学 埼玉医科大学 城西大学 日本工業大学	3・4・5年	集中	必修・選択必修・選択	地域	△	△	△	△	△
	⑳ IPW実習②・社会医学実習	★埼玉県立大学 埼玉医科大学	4年	集中	必修・選択必修	地域					

★ 共通教材の作成(例)

埼玉県立大学「ヒューマンケア論」全15回の講義のうち、「生老病死」「障がい」の観点から8講義分の内容を選択してDVD教材を作成しました。多くの学生が視聴可能な学内ネットワーク講義配信システムにDVD教材を組込んだ視聴形式や、既存科目の中で本教材を使用した授業にも活用できるように、1回分の視聴時間は概ね45～60分程度とし、各回の内容を自らの専門性や経験と照らし合わせて振り返る内容を盛り込みました。

これによって、連携大学（埼玉医科大学、城西大学、日本工業大学）のカリキュラムや教育コンテンツに合わせた柔軟な使用が可能となり、IPWにおける基礎概念（ヒューマンケア）共有のための共通教育教材が整備できました。

「ヒューマンケア論」DVD教材（平成26年度作成）

巻	テーマ	内容
1	ヒューマンケアとは	なぜヒューマンケアを学ぶのかを考える
2	「生」を見つめる	「生」の意味を問い直す
3	「老い」を見つめる	老いること、それを支える意義を考える
4	病と向き合って	病と向き合うことについて考える
5	緩和ケアを通じて「生」の意味を知る	緩和ケアを通じて、「生」の意味を考える
6	チームについて考える	チームで対応することの強さ、その際の課題などについて考える
7	当事者の立場から	保健医療福祉サービスを必要とする当事者の体験をうかがう
8	まとめ	授業の全体を振り返る

★ 補助期間終了後の
“相互協力・連携に関する協定”の締結

平成28年度
第2回 彩の国大学連携学長会議
(平成29年1月25日)

平成28年度 第2回 彩の国大学連携学長会議

埼玉県立大学 埼玉医科大学 城西大学 日本工業大学 埼玉県



<彩の国連携科目の連携教育に関する協定書>

**埼玉県立大学、埼玉医科大学、城西大学、日本工業大学及び埼玉県の
相互協力・連携に関する協定書**

埼玉県立大学、埼玉医科大学、城西大学、日本工業大学（以下「協成大学」という。）及び埼玉県（以下「県」という。）は、相互協力・連携に関する基本的な事項について、次のとおり協定を締結する。

（目的）
第1条 この協定は、協成大学及び県の相互の密接な協力と連携により、保健医療福祉分野を中心とした住民の暮らしを支える専門職連携教育の発展と連携力のある人材育成に資することを目的とする。






（内訳）
第2条 協成大学及び県は、前条の目的を達成するための専門分野等に応じて、次に掲げる事項の協力・連携に努める。
（1）大学間連携共同教育推進事業で構築した彩の国連携科目の運営
（2）保健医療福祉分野等における人材育成に資すること
（3）その他、目的を達成するために必要な事項

（協定期間）
第3条 本協定書の有効期間は、締結の日から起算して1年間とする。ただし、協定書の有効期間満了の日の30日前までは、協成大学及び県のいずれから解除の申し出がない場合は、有効期間満了の日の翌日から更に1年間有効とする。その後においてもまた同様とする。

（その他）
第4条 この協定に定めのない事項及びこの協定に抵触が生じたときは、別途、協成大学及び県が協議し、決定する。

この協定を証するため、本書5通を作成し、協成大学及び県が各1通を保有する。

平成29年1月25日

埼玉県立大学 学長 三浦 宜彦	
埼玉医科大学 学長 別所 正義	
城西大学 学長 白崎 謙	
日本工業大学 学長 成田 健	
埼玉県 知事 上田 清孝	

<相互協力・連携による人材育成に関する協定書>

**埼玉県立大学、埼玉医科大学、城西大学、日本工業大学の
彩の国連携科目に関する協定書**

埼玉県立大学、埼玉医科大学、城西大学、日本工業大学（以下「協成大学」という。）は、相互の交流と教育の充実・発展を目的として次の事項について合意したので、本協定書を締結する。

（趣旨）
第1条 協成大学は、「ヒューマンケア論」、「ヒューマンケア体験実習」、「IPW論」、「IPW演習」、「IPW実習」を彩の国連携科目として定め、その共同開講について、十分に協議し適切な科目運営がなされるよう努める。なお、前述の科目名は協成大学で共通した呼称であり、各大学における実際の科目名はそれぞれが定める。

（科目の運営方法）
第2条 彩の国連携科目の運営に際しては、担当大学が協成大学と協議の場を設け、教員の協力体制、学生の履修方法、教材や教育方法、成績評価の方法等を定める。
2 「IPW実習」の実施にあたっては、埼玉県立大学が担当となり、協成大学と協議の上、各大学で参加を希望する学生が、科目運営上相互に支障のない限り受講できるように努める。
3 「IPW演習（緑と医療学）」の実施にあたっては、城西大学が担当となり、協成大学と協議の上、各大学で参加を希望する学生が、科目運営上相互に支障のない限り受講できるように努める。
4 「IPW演習（リハビリテーションと生活空間デザイン）」の実施にあたっては、日本工業大学が担当となり、協成大学と協議の上、各大学で参加を希望する学生が、科目運営上相互に支障のない限り受講できるように努める。
5 上記以外の「ヒューマンケア論」、「ヒューマンケア体験実習」、「IPW論」、「IPW演習」については、協成大学の協議によって教材や教育方法の共通化に努め、それぞれの大学において実施する。

（学生の身分）
第3条 彩の国連携科目を受講する学生の身分は、それぞれの大学に所属する。

（履修期間）
第4条 彩の国連携科目の履修期間は、協成大学による協議の上決定する。

（受入れ学生数）
第5条 彩の国連携科目の受講学生数は、協成大学による協議の上決定する。

（履修方法）
第6条 彩の国連携科目の履修方法は、協成大学がそれぞれ定める。

（成績の評価）
第7条 協成大学は、彩の国連携科目を受講した学生の成績評価を、各協成大学から提供された資料に基づいて行う。
2 協成大学は、彩の国連携科目の成績評価に必要な資料を相互に提供する。

（授業料等）
第8条 彩の国連携科目の受講に際して、学生から特別な授業料は徴収しない。
2 学生の実習の参加に必要な交通費、宿泊費の取扱いは、協成大学がそれぞれ定める。

（実習施設への謝金）
第9条 彩の国連携科目のうち、「IPW実習」を行う施設に支払う謝金については、協成大学がそれぞれの受講学生に係る分を負担する。





（費用）
第10条 この協定の履行に必要な事項は、別に覚書を定める。

（有効期間）
第11条 この協定は、平成29年4月1日から施行し、施行の日から起算して1年間有効とする。ただし、協定書の有効期間満了の日の30日前までは、協成大学のいずれから解除の申し出がない場合は、有効期間満了の日の翌日から更に1年間有効とする。その後においてもまた同様とする。

（その他）
第12条 この協定に定めのない事項については、協成大学において協議するものとする。

この協定書の成立を証するため、協定書4通を作成し、協成大学が各1通を保有する。

平成29年1月25日

埼玉県立大学 学長 三浦 宜彦	
埼玉医科大学 学長 別所 正義	
城西大学 学長 白崎 謙	
日本工業大学 学長 成田 健	

2025年度
4大学連携教育プロジェクト (saipe) の
取り組み



I 2025年度“大学間連携事業実施体制” (saipeメンバー)

平成29年1月25日に締結された協定に基づき、各大学および埼玉県から担当者（教員・事務職員、県職員）が選出され、**Saipeメンバー**として活動しています。Saipeメンバー同士が理解し合い、連携を深め、充実した継続的かつ発展的な活動とするために、定期的な会議（**大学間連携運営連絡会議**、年8回以上）を開催しています。また、担当するSaipeメンバーのみならず、**各大学・埼玉県に所属する教職員を巻き込んで**、各種大学間連携事業を実施しております。なお、人材育成事業では、埼玉県内の多くの**職能団体等からの担当者**も参加（**Sai_UPPs**）いただいております。

<埼玉県立大学>

林 裕栄 (学長)
善生 まり子 (統括責任者、IPEセンター長、看護学科 教授)
吉村 基宜 (統括担当者、IPEセンター員、看護学科 助教)
國澤 尚子 (IPEセンター員、看護学科 教授)
井上 和久 (IPEセンター員、IPE科目担当者会長、IPW実習主任科目責任者、理学療法学科 准教授)
押野 修司 (IPEセンター員、作業療法学科 准教授)
嵩末 恵子 (IPEセンター員、IPW演習科目担当、社会福祉子ども学科(社会福祉) 教授)
小川 孔美 (IPEセンター員、IPW論科目担当、社会福祉子ども学科(社会福祉) 准教授)
丸山 優 (IPEセンター員、看護学科 教授)
井原 寛子 (IPEセンター員、健康開発学科(検査) 教授)
岡田 茂治 (IPEセンター員、健康開発学科(検査) 准教授)
浦丸 直人 (IPEセンター員、共通教育科 准教授)
朝日 雅也 (専門職連携コーディネーター、埼玉県立大学名誉教授)
高橋 恵子 (ヒューマンケア体験実習担当、看護学科 教授)
田口 孝行 (学生支援センター長、理学療法学科 教授)

中野 真理子 (IPEセンター、研究・地域連携担当 担当部長)
小暮 基世 (IPEセンター、研究・地域連携担当 担当課長)
澤里 寿 (研究・地域連携担当 事務)
(中山 由香子：教務・入試担当 主事)

<埼玉医科大学>

竹内 勤 (学長)
森 茂久 (Saipe統括責任者) (医学部長、副学長、医学教育センター長)
三村 俊英 (Saipe統括担当者) (副学長、医療人育成支援センター長)
柴崎 智美 (Saipeリーダー) (地域医学推進センター長、医学部医学教育学 教授)
米岡 裕美 (Saipeサブリーダー) (医学部教養教育 准教授)
金田 光平 (Saipeサブリーダー) (医学教育センター 助教)
高橋 幸子 (地域医学推進センター 助教)
井上 直子 (医学教育センター 准教授)
小池 啓子 (医学教育センター 助教)
石橋 敬一郎 (医学部医学教育学 准教授)
杉山 智江 (医学教育センター 助教)
宮崎 孝 (医学部社会医学 客員准教授)
荒木 隆一郎 (医学教育センター 非常勤講師)
本橋 千恵美 (医学教育センター 非常勤講師)
植村 真喜子 (地域医学推進センター 助手)

江口 幹也 (大学事務部長)
近藤 有寛 (大学事務部 医学部事務室次長)
長島 公子 (医学教育センター 事務)
鍋田 隆 (地域医学推進センター 事務)

<城西大学>

岡崎 真理 (Saipe統括責任者) (薬学部長、薬学科 教授)
 村田 勇 (Saipe統括担当者) (薬学科 助教)
 白幡 晶 (Saipe統括担当者) (学長補佐)
 古屋 牧子 (Saipeリーダー) (医療栄養学科 准教授)
 上田 秀雄 (Saipeサブリーダー) (薬学科 教授)
 小糸 寿美 (Saipeサブリーダー) (薬科学科 准教授)
 細谷 治 (薬学科 客員教授)
 宮本 嘉明 (薬学科 教授)
 長井 麻希江 (薬学科 特任教授)
 堀井 徳光 (薬学科 助教)
 小玉 菜央 (薬学科 助教)
 君羅 好史 (医療栄養学科 准教授)
 五十嵐 庸 (医療栄養学科 准教授)

高尾 浩一 (地域連携センター所長、薬科学科 教授)
 庭田 文近 (地域連携センター副所長、現代政策学部 教授)
 奈良 博恵 (地域連携センター事務室 事務長)
 渡辺 沙織 (地域連携センター事務室)
 春原 若菜 (地域連携センター事務室 IPE担当)

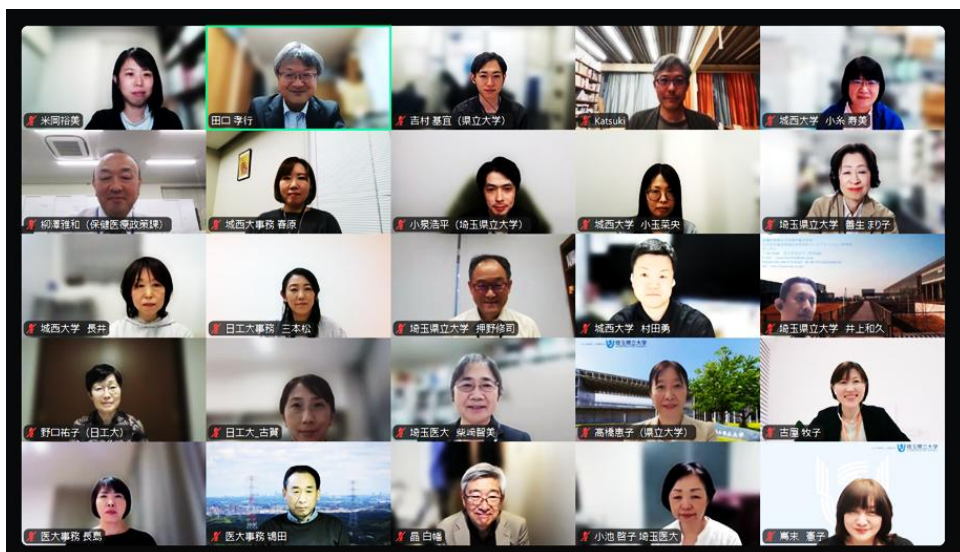
<日本工業大学>

竹内 貞雄 (Saipe総括責任者) (学長)
 勝木 祐仁 (Saipe総括担当者) (建築学科 教授)
 野口 祐子 (建築学科 教授)
 古賀 繭子 (建築学科 准教授)

服部 邦彦 (教育研究推進室 室長)
 津留 広明 (教育研究推進室 課長)
 三本松 陽子 (教育研究推進室 事務)

<埼玉県>

根岸 佐智子 (保健医療部保健医療政策課 保健所・衛生研究所・県立大学担当 主幹)
 内山 未久 (保健医療部保健医療政策課 保健所・衛生研究所・県立大学担当 技師)



Ⅱ 2025年度“大学間連携運営連絡会議”の開催実績

第1回

日 時：2025年4月17日（木）17：30～19：45 場 所：webミーティング（Zoom）

担 当：埼玉県立大学

出席者：**県立大**：林裕栄、善生まり子、田口孝行、國澤尚子、高橋恵子、井上和久、押野修司、嵐末恵子、小川孔美、吉村基宜、小暮基世／**埼玉医大**：柴崎智美、米岡裕美、井上直子、高橋幸子、金田光平、小池啓子、長島公子、鶴田隆／**城西大**：白幡晶、古屋牧子、小糸寿美、村田勇、君羅好史、五十嵐庸、奈良博恵、春原若菜／**日工大**：勝木祐仁、野口祐子、津留広明、沖田次朗、三本松陽子／**埼玉県**：内山未久

林裕栄埼玉県立大学学長からの挨拶

- <議題> (1) 2025年度の実施体制について
(2) 2025年度saipe活動計画について（県大：田口）
(3) 緩和ケアIPW研修会について（城西大、県大）
(4) 職能団体と4大学の意見交換会について（医大：柴崎）
- <報告> (1) 2024年度saipe活動報告書（県大：田口） 他5

第2回

日 時：2025年6月19日（木）17：30～19：00 場 所：webミーティング（Zoom）

担 当：埼玉医科大学

出席者：**県立大**：國澤尚子、高橋恵子、嵐末恵子、井上和久、押野修司、小川孔美、吉村基宜、朝日雅也、小暮基世／**埼玉医大**：柴崎智美、米岡裕美、井上直子、金田光平、小池啓子、長島公子、鶴田隆／**城西大**：古屋牧子、小糸寿美、村田勇、宮本嘉明、長井麻希江、小玉菜央、君羅好史、五十嵐庸、奈良博恵、春原若菜／**日工大**：勝木祐仁、野口祐子、津留広明、三本松陽子／**埼玉県**：根岸佐智子、内山未久

- <議題> (1) RFLジャパン川越2025について（城西大：古屋・五十嵐）
(2) 意見交換・懇親を目的とした行事について（日工大：勝木）
- <報告> (1) 2025年度の実施体制について（県大：吉村、城西大：古屋）
(2) 職能団体との意見交換会（Sai_UPPs）について（医大：柴崎）
(3) キャラ化について（医大：米岡）
(4) IPWカフェについて（医大：米岡）
(5) 緩和ケアIPW研修会について（城西大：村田、小糸、県大：吉村）
(6) 医学部・保健医療学部合同IPEについて（医大：小池、柴崎）

第3回

日 時：2025年7月17日（木）17：30～19：40 場 所：webミーティング（Zoom）

担 当：埼玉県立大学

出席者：**県立大**：善生まり子、高橋恵子、嵐末恵子、井上和久、押野修司、吉村基宜、小暮基世、／**埼玉医大**：柴崎智美、米岡裕美、井上直子、金田光平、小池啓子、長島公子、鶴田隆／**城西大**：古屋牧子、小糸寿美、村田勇、宮本嘉明、長井麻希江、小玉菜央、五十嵐庸、奈良博恵、春原若菜／**日工大**：勝木祐仁、古賀繭子、津留広明、三本松陽子／**埼玉県**：内山未久

- <議題> (1) 職能団体との意見交換会（Sai_UPPs）について（医大：柴崎）
(2) 緩和ケアIPW研修会について（城西大：村田、小糸）
- <報告> (1) IPWカフェについて（医大：米岡）
(2) リレー・フォー・ライフ・ジャパン川越について（城西大：古屋、五十嵐）
(3) 「井戸端SAIPE」＋懇親会について（日工大：勝木）
(4) 第84回日本公衆衛生学会総会グループワーク（キャラ化）（医大：柴崎、県大：田口）
(5) 各大学の5科目の概要とシラバスをあらためて！（医大：柴崎）

第4回

日 時：2025年10月16日（木）17：30～20：00 場 所：webミーティング（Zoom）

担 当：日本工業大学

出席者：**県立大**：善生まり子、國澤尚子、押野修司、小川孔美、吉村基宜、小暮基世／**埼玉医大**：柴崎智美、米岡裕美、井上直子、高橋幸子、小池啓子、長島公子、鶴田隆／**城西大**：古屋牧子、小糸寿美、村田勇、宮本嘉明、長井麻希江、小玉菜央、五十嵐庸、奈良博恵、春原若菜／**日工大**：勝木祐仁、古賀繭子、津留広明、三本松陽子／**埼玉県**：内山未久

- <議題> (1) 職能団体との意見交換会（Sai_UPPs）について（医大：柴崎）
(2) IPW演習（緩和医療学）について（城西大：細谷、村田）
- <報告> (1) 緩和ケアIPW研修会について（城西：小糸、村田・県大：吉村）
(2) RFLジャパン川越2025について（城西大：古屋、五十嵐、宮本）
(3) IPWカフェについて（医大：米岡、県大：國澤）
(4) キャラ化について（医大：米岡）
(5) IPW実習導入ワーク（生活環境デザインワーク）について（医大：柴崎）
(6) 井戸端SAIPEについて（日工大：勝木）
(7) 地域における連携力育成について（日工大：勝木） 他1

第5回

日 時：2025年11月20日（木）17：30～20：00 場 所：webミーティング（Zoom）

担 当：城西大学

出席者：**県立大**：善生まり子、國澤尚子、高橋恵子、嵩末憲子、井上和久、押野修二、小川孔美、吉村基宜、朝日雅也、小暮基世／**埼玉医大**：柴崎智美、米岡裕美、井上直子、金田光平、小池啓子、長島公子、鶴田隆／**城西大**：白幡晶、古屋牧子、小糸寿美、村田勇、宮本嘉明、君羅好史、五十嵐庸、小玉菜央、堀井徳光、奈良博恵、春原若菜／**日工大**：勝木祐仁、古賀繭子、津留広明、三本松陽子／**埼玉県**：内山未久

- <議題> (1) 職能団体と4大学の意見交換会について（医大：柴崎）
(2) トークイベント（共同学習事業・3月）について（日工大：勝木）
- <報告> (1) 第84回日本公衆衛生学会総会GW（キャラ化）について（医大：米岡、県大：田口）
(2) 2025年度IPW実習報告及び2026年度IPW実習について（県大：井上）
(3) IPW演習（リハビリテーションと生活空間デザイン）について（日工大：野口）
(4) IPW演習（緩和医療学）について（城西大：細谷・村田）
(5) ヒューマンケア論（ヒューマンケアと生活空間）について（日工大：勝木）

第6回

日 時：2026年1月15日（木）17：30～19：00 場 所：webミーティング（Zoom）

担 当：埼玉医科大学

出席者：**県立大**：田口孝行、國澤尚子、井上和久、小川孔美、朝日雅也、吉村基宜、小暮基世／**埼玉医大**：柴崎智美、米岡裕美、井上直子、高橋幸子、金田光平、小池啓子、長島公子、鶴田隆／**城西大**：古屋牧子、宮本嘉明、長井麻希江、小糸寿美、五十嵐庸、村田勇、堀井徳光、小玉菜央、奈良博恵、春原若菜／**日工大**：勝木祐仁、古賀繭子、津留広明、三本松陽子／**埼玉県**：根岸 佐智子

- <議題> (1) 2026年度活動計画（案）について（日工大：勝木）
(2) 職能団体との意見交換会（Sai_UPPs）について（医大：柴崎）
(3) 2025年度SAIPE活動報告書について（議長）
(4) 緩和ケアIPW研修会について（城西大：村田・小糸、県大：吉村）
- <報告> (1) 地域における連携力育成について（日工大：勝木・野口）
(2) IPWカフェについて（日工大：勝木）
- <その他> (1) IPW演習（緩和医療学）について（城西大：村田）
(2) 令和7年度 埼玉・群馬未来医療人育成シンポジウムについて（医大：柴崎）

第7回

日 時：2026年2月19日（木）17：30～19：15 場 所：webミーティング（Zoom）

担 当：城西大学

出席者：**県立大**：善生まり子、田口孝行、井上和久、押野修二、吉村基宜、小暮基世／**埼玉医大**：柴崎智美、米岡裕美、高橋幸子、金田光平、小池啓子、長島公子／**城西大**：古屋牧子、白幡晶、小糸寿美、村田 勇、長井麻希江、宮本嘉明、五十嵐庸、堀井徳光、小玉菜央、奈良博恵、春原若菜／**日工大**：勝木祐仁、野口祐子、津留広明、三本松陽子／**埼玉県**：内山未久

- <議題> (1) 職能団体との意見交換会（Sai_UPPs）について（医大：柴崎）
(2) 緩和ケアIPW研修会について（城西大：小糸、県大：吉村）
(3) 2026年度活動計画（案）について（日工大：勝木）
- <報告> (1) 2025年度SAIPE活動報告書について（県大：田口）
(2) IPW演習（リハビリと生活空間デザイン）について（日工大：野口、県大：田口）
(3) IPW演習（緩和医療学）について（城西大：村田）
(4) IPWカフェについて（日工大：勝木）
(5) 共同学習事業（トークイベント）について（日工大：勝木）

第8回

日 時：2026年3月19日（木）17：30～19：00 場 所：webミーティング（Zoom）

担 当：日本工業大学

出席者：**県立大**：善生まり子、高橋恵子、井上和久、押野修二、吉村基宜、小暮基世／**埼玉医大**：柴崎智美、米岡裕美、井上直子、高橋幸子、長島公子、鶴田隆／**城西大**：古屋牧子、白幡晶、小糸寿美、長井麻希江、宮本嘉明、君羅好史、五十嵐庸、小玉菜央、春原若菜／**日工大**：勝木祐仁、野口祐子、古賀繭子、津留広明、三本松陽子／**埼玉県**：内山未久

- <議題> (1) 職能団体との意見交換会（Sai_UPPs）について（医大：柴崎）
(2) 2026年度活動計画（案）について（日工大：勝木）
- <報告> (1) IPWワークショップについて（城西大：小糸、県大：吉村）
(2) IPWカフェについて（日工大：勝木）
(3) 共同学習事業（トークイベント）について（日工大：勝木）
- <その他> (1) 2025年度saipe活動報告書について（県大：田口）
(2) 埼玉県立大学のシラバスについて（県大：井上）
(3) 全国リハビリテーション学校協会における埼玉県立大学理事からの依頼について（県大：井上）

Ⅲ 2025年度“彩の国連携科目”の実施報告

1. 2025年度“彩の国連携科目”への対応科目と受講者数

1) ヒューマンケア論

大学	対応科目	開講年次、実施回数、実施日程
埼玉県立大学	ヒューマンケア論	1年前期、必修、15回（4～7月）
埼玉医科大学	地域医療とチーム医療	1年通年、必修、16回、（4～1月）
城西大学	フレッシュマンセミナー（薬学）B 薬学実習C（キャリア形成系）	1年秋学期、必修、5回（9月～12月） 2年春学期、必修、4回（6月）
日本工業大学	ヒューマンケアと生活空間	1年秋学期、必修、14回（9～1月）

※教員交流による大学間共同教育

埼玉医科大学『Pre-CC2-1(地域医療実習)』導入ワーク（4年、必修、10月）

非常勤講師：勝木祐仁（日本工業大学）

2) ヒューマンケア体験実習

大学	対応科目	開講年次、実施回数、実施日程
埼玉県立大学	ヒューマンケア体験実習	1年後期、必修、4日間（9月19日～26日）
埼玉医科大学	臨床入門1 臨床入門2	1年通年、必修、24回（4～1月） 2年通年、必修、15回（5～12月）
城西大学	薬学概論（早期体験実習） 医療栄養学概論演習	1年春学期、必修、1日間 2年秋学期、必修、1日間
日本工業大学	ケア空間体験実習	1年秋学期、選択、2日間+オリ+リフレクション

3) IPW論

大学	対応科目	開講年次、実施回数、実施日程
埼玉県立大学	IPW論	2年後期、必修、8回（10～2月）
埼玉医科大学	地域医療とチーム医療（地域基盤型 IPW論）	2年通年、必修、16回（4～1月）
	Pre-CC1-2（他職種業務見学実習、 看護業務体験実習）	3年通年、必修、14回（10～11月）
城西大学	薬学実習C（キャリア形成系）	2年春学期、必修、6回（6～7月）
	薬学総合演習A	2年秋学期、必修、2回（9～10月）
	薬学総合演習B	3年秋学期、必修、2回（9～10月）
日本工業大学	協働デザインの手法	2年秋学期、選択、14回（9～1月）

★ “彩の国連携科目” の受講者数（2025年度実績）

	埼玉県立大学	埼玉医科大学	城西大学	日本工業大学	計
1) ヒューマンケア論	411名	273名	265名	59名	1,008名
2) ヒューマンケア体験実習	408名	266名	192名	16名	882名
3) IPW論	403名	297名	471名	23名	1,194名

4) IPW演習

大学	対応科目	開講年次、実施回数、実施日程
埼玉県立大学	IPW演習	3年前期、必修、8回（6～8月）

(1) IPW演習（緩和医療学） 11月29日（金）13：30～17：00 会場：城西大学

大学	対応科目	開講年次、実施回数、実施日程
城西大学	緩和医療学	3・4年、選択
埼玉医科大学	地域医療とチーム医療(IPW演習)	3年
埼玉県立大学	地域理学療法学実習(理学療法学科)	3年前期、必修、3回（12月）
日本工業大学	※参加者募集	不問

(2) IPW演習（リハビリテーションと生活空間デザイン）

12月7日（土）12:30～17:00 会場：日本工業大学

大学	対応科目	開講年次、実施回数、実施日程
日本工業大学	福祉空間の設計	2年秋学期、選択
埼玉県立大学	地域理学療法学実習(理学療法学科)	3年前期、必修、3回（11月）

(3) IPW演習（埼玉医科大学医学部・保健医療学部の合同IPE） 5月24日(土)、31日(土)

大学	対応科目	開講年次、実施回数、実施日程
埼玉医科大学	Pre-CC1-1	3年1学期、必修、6回（5～6月）

5) IPW実習

- ・オリエンテーションⅠ：8月7日(木)
 - ・オリエンテーションⅡ：IPW実習①（8月21日（木））／IPW実習②（9月25日（木））
 - ・IPW実習①：8月26日(火)～29日(金)
 - ・IPW実習②：9月29日(月)～10月2日(木)
- ※教員FT説明会：5月26日（月） / 施設FT説明会：6月2日（月）

大学	対応科目	開講年次、実施回数、実施日程
埼玉県立大学	IPW実習①	4年後期、必修、4日間(8月26日～29日)
	IPW実習②	4年後期、必修、4日間(9月29日～10月2日)
埼玉医科大学	Pre-CC2-1(地域医療実習)	4年、選択必修、4日間(9月29日～10月2日)
城西大学	※参加者募集	薬学科4,5年生、薬科学科3年生、 医療栄養学科3年生（8月26日～29日）
日本工業大学	専門職連携実習	3年秋学期、選択、4日間（8月26日～29日）

★ “彩の国連携科目” の受講者数（2025年度実績）

	埼玉県立大学	埼玉医科大学	城西大学	日本工業大学	計
4) IPW演習	412名	468名	22名	24名	926名
5) IPW実習	415名	35名	19名	9名	478名

2. 4大学で行うIPW演習

彩の国連携5科目における“IPW演習”は、埼玉県立大学が全学で実施している“IPW演習”に組み込むことは、IPW実習以外に大学ごとに異なる学年歴・時間割を合わせて開催日（期間）の選定が容易ではないことなどの理由から実施は困難でした。しかし、演習（および実習）は、大学混合で行う方が高い教育効果が期待できること、IPEの基本は定義にもあるように「同じ場所で共に学び、お互いから学びあいながら、お互いのことを学ぶ」ことであることから、埼玉県立大学のIPW演習とは別枠で実施する4大学共同開講形態を検討しました。

その結果、城西大学で養成している模擬患者さんの協力を得て、城西大学・埼玉医科大学・埼玉県立大学理学療法学科・日本工業大学（希望者）で実施する「緩和医療（ケア）」をテーマとした**IPW演習（緩和医療学）**、日本工業大学・埼玉県立大学理学療法学科（他学科の希望者）で実施する「生活空間とリハビリ」をテーマとした**IPW演習（リハビリテーションと生活空間デザイン）**の方法を考案しました。

1) IPW演習（緩和医療学）

IPW演習（緩和医療学）は、**緩和ケアを題材に、模擬患者に対する面談**やその内容を踏まえた**4大学混合チームによる議論**によって、全人的なアプローチから**ケアプランを作成**するとともに、**多職種がチームとして活動し、乗り越えるべき課題について考える演習**としています。

コロナ禍には、対面での演習が困難であったことから、学生（チーム）—模擬患者—教員（ファシリテータ）をオンラインで繋ぎ、模擬患者との面談、学生チームディスカッション、教員によるファシリテーション、そしてチーム発表とリフレクションを**Web上で演習する開催方法も開発**しました。



2) IPW演習（リハビリテーションと生活環境デザイン）

IPW演習（リハビリテーションと生活環境デザイン）は、日本工業大学建築学科生活環境デザインコース（建築分野）と埼玉県立大学理学療法学科（リハビリ分野）、および他学科（保険医療福祉分野）の希望者による混合チーム（1チーム3~4名）にて、**生活環境整備に特化したグループワーク**を行います。

ペーパー事例、または協力者（実際に障害をお持ちの方）が**望む生活の実現、生きがいの創出**、また、**地域との関係を持ち役割を發揮できる生活環境**の整備提案をまとめるグループワークを通して、IPWにおけるチーム形成プロセス、およびチームによる課題発見・解決策等の討議の体験、そして、この体験を振り返り（リフレクション）、意味づけ、自分の課題を見出すことを目的としています。



1) 2025年度 IPW演習（緩和医療学）

12月5日（金）13：30～17：05 会場：城西大学

わが国が推進している医療、介護および福祉の領域が連携し患者などのケアを行う地域包括システムは、複数の領域の専門職者がそれぞれの技術と知識を提供し合い、相互の作用しつつ共通の目標の達成を患者・利用者とともにめざす協働した多職種連携実践（IPW）によって支えられている。IPWの発展には、複数の領域の専門職者は連携およびケアの質を改善するために、**同じ場所で共に学び、お互いから学びあいながら、お互いのことを学ぶ、多職種連携教育（IPE）**が大切である。専門職（または多職種）者は、常にIPEの姿勢や態度をもってIPWに臨める専門職の育成が臨まれるが、それぞれの職域を中心とした教育や、職能を発揮させる経緯などの要因が、専門職の連携した質の高いサービスを提供する際の障壁となることがある。

城西大学、埼玉県立大学、埼玉医科大学および日本工業大学の4大学は、異なる専門性をもった人材を輩出する教育を行っており、地域住民の暮らしを支える連携力を育成するための教育方法を開発するために「彩の国連携力育成プロジェクト(saipel)」を共同で運営している。saipelは5つの地域基盤型IPWコンピテンシーを定め、教育プログラムを3つの学びの要素に分け「彩の国連携科目」として身に付けるべきものを明示した。そのプログラムの1つであるIPW演習（緩和医療学）は、**緩和ケアを題材に、模擬患者に対する面談**やその内容を踏まえた**チームによる議論**によって、全人的なアプローチから**ケアプランを作成**するとともに、**多職種がチームとして活動し、乗り越えるべき課題について考える演習**である。

2025年度は、埼玉県立大学理学療法学科（27名）、埼玉医科大学医学科（3年生135名）、城西大学薬学部（22名：薬学科16名、医療栄養学科6名）の総勢**184名の学生**によって実際されました。

学生たちは、培った知識や技術を応用してメンバーたちと面と向かって上手にコミュニケーションを図り、模擬患者さんの病歴や治療情報、さらにはインタビューを通じて得た患者さんの生活状況や**思い**などをもとに、**患者さんに寄り添いながら**支援する方策について活発に話し合っていました。また、学生に協力を得て事前および事後のアンケート調査を実施した。この演習は、患者の思いや気持ちに寄添うこと、患者の状況を客観的に評価すること、グループ活動やコミュニケーションを実践することなどに有効であった。特に、この演習を経験することは単独の大学の学生で構成されるメンバーよりも、**複数の大学の学生で構成されたチームが、IPWに対する理解が高まる**ことを明らかにした。次年度は、単独の大学で構成された学生も高い学習効果を得るような工夫をする予定である。



チーム活動の様子



培った技術で情報を可視化する



模擬患者への面談の様子



模擬患者との面談は本物そのもの



まとめた意見を発表する様子



演習後は親睦も深まりIPWを実感

2) 2025年度 IPW演習（リハビリテーションと生活空間デザイン）

日 程：2025年11月29日（土）12:15～17:00

会 場：日本工業大学（対面）

【授業（演習）の目的・概要】

日本工業大学建築学科生活環境デザインコースと埼玉県立大学理学療法学科を中心とする保健医療福祉分野の学科が連携し、**IPW 演習（リハビリテーションと生活空間デザイン）**を実施している。

この授業では、**保健医療福祉分野（主に理学療法）と建築分野の学生による混合チーム**（1チーム3～4名）で、実在する協力者（脊髄損傷による下肢機能障害）の退院に合わせた生活環境整備として、「身体機能にあわせ、できるだけ自立を可能にする住まい」であり、暮らしを豊かにするための「各種サービス（フォーマル・インフォーマル）の利用」、「地域との交流」、「生きがいの創出」等を考慮した環境の整備について考案する。そのグループワークを通してIPWにおける**チーム形成プロセス、およびチームによる課題発見・解決策等の討議の体験**、そして、この体験を振り返り（**リフレクション**）、意味づけ、**自分の課題を見出す**ことを目的としている。



全体オリエンテーション

チーム活動（作図・討議）

報告会（発表）

	日本工業大学 建築学部	埼玉県立大学 保健医療福祉学部
学科	建築学科生活環境デザインコース	理学療法学科
学生	「福祉空間の設計」履修者（2年生24名） ※2024年度:23名	「地域理学療法実習」履修者（3年生12名） ※日工大履修者の1/2で配置
内容	12:15～13:05	1) オリエンテーション（チーム毎に着席） 2) あいさつ、「事前自己評価」の実施※写真撮影の許可 3) 本日の授業の説明・タイムスケジュール等 4) ディスカッション課題説明 5) ディスカッション方法の補足説明 6) アイスブレイク：自己紹介等
	13:10～15:10	グループディスカッション開始（120分間）※各グループで適宜休憩を挟む
	15:15～16:40	報告会（85分間） 1チーム5分発表 全体ディスカッション
	16:40～17:00	総評、「事後自己評価」の実施、終了

3. 2025年度“井戸端SAIPE”と“懇親会”

SAIPEは2012～2016年度の文部科学省による助成期間後も事業を継続し、新たな取り組みにも挑戦し続けています。しかし、メンバーの変動があったものの、オンラインでの会議が続き、「お互いをよく知ることができない。」「聞きたいことを聞けない、疑問があっても確認しにくい。」といったことが、口々に語られることがありました。そこで、対面で集まり、**お互いを知ったり、これまでに疑問に思っていたことや感じていたことを気楽に伝え合ったりする機会**として、「井戸端SAIPE」が企画されました。

日 時：2025年8月7日（木） 18：00～19：30

会 場：埼玉県立大学 北棟 看護実習室102

参加者：24名（県立大学9名、埼玉医大4名、城西大6名、日工大3名、埼玉県2名）

企画・運営：勝木（日工大）・米岡（埼玉医大）※企画検討・準備には他のメンバーも協力。

実施内容：○はじめに（OARRの共有 / SAIPEの概要）

○自己紹介（グループごとに「私の取扱説明書」を作成して共有。）

○SAIPEについての気軽な意見交換

以下のA～Eのトピックについて、各テーブルで意見交換を行いました。

A：知りたい・疑問に思っていた事 B：運営会議を盛り上げたい C：SAIPEこれからどうなる？
D：SAIPEこれからどうしたい？ E：SAIPEを知りたい疑問に思うこと

1人を残して席替えを繰り返す「ワールド・カフェ」形式で行われたため、各テーブルでどのようなことが語られたか、大まかな内容が自然と全体に共有されました。

当日の様子と成果

当日は会が始まる前から各テーブルで**会話に花が咲き、自己紹介を経て、意見交換も和やかな雰囲気のまま進められました。**その中で〈SAIPEのめざすところがよく把握できていない〉〈同じ景色を見ているかわからない〉、運営連絡会議は〈ルーチン的な取り組みについて話す場か？〉〈一部の人しか発言していない印象〉〈過去の経緯がわからないので発言もためらう〉など、**率直な思いが表出されました。**



SAIPEの概要



自己紹介



各テーブルの様子①



各テーブルの様子②



席替え



発表（各テーブルでの話しについて）

これまでの経緯や目的についての共有が不十分であること、多くのメンバーが疑問や不安を抱えていることなど、重大な課題が浮かび上がりました。このような機会だからこそ、また、和やかな雰囲気だからこそ、率直な思いを表出し合えたのだと思われます。その意味で、「井戸端SAIPE」は、**主旨通りの有意義な会になったと言えるかも知れません。**しかし、見出された課題は看過できません。得られた率直な意見や気づきを今後の運営に生かし、**メンバーが目的や方向性を共有できている状態で、安心して取り組めるSAIPEにしていくことが、次のステップとして期待されている**と言えるでしょう。

IV 彩の国連携力育成（人材育成事業）

1. 職能団体との意見交換会（Sai_UPPs）

【概要・経緯】

saipeでは主に大学教育において、現場に出る前の学生の“連携力”を育成を目指してきましたが、「（saipeのIPEの）アウトカムは？」、また、卒業生からの「学んだ連携力が現場で発揮しにくい」との声もありました。SaipeでIPEを学んだ学生の卒業後についての議論のなかで、実践現場における連携の充実のためにも、**学生教育と現場の人材育成を両輪**とした**連携力育成**の必要性があがりました。

そして、現場へのアプローチの一つとして、2018年度に埼玉県職能団体との意見交換会を開催することにしました（埼玉県における「連携力の高い人材育成」を目指した職能団体と4大学の意見交換会）。以降、毎年1・2回、意見交換会を継続しています。参加団体（2025年度現在）は、埼玉県の**医師会、栄養士会、介護支援専門員協会、看護協会、公認心理師協会、歯科医師会、社会福祉士会、理学療法士会、薬剤師会**に加えて、**工務店及び建築士会**にも参加いただいています。

本会を通じて、**saipeと職能団体の間、職能団体同士の間での相互理解や人間関係の醸成**が進み、また、saipeの事業への職能団体の支援を受けることができ、連携して人の暮らしを支えられる人材を育てることが重要だという認識の共有も進んできました。他方、この意見交換の場自体も多様な専門や背景を持つ“人”の間の連携の機会でもあります。そこで、**意見交換会開催に当たっては、会に参加することが楽しい、役に立つ、次も参加したいと思えることを大切に**しています。

2024年度には、この会に相応しい名称を参加者全員で議論して、「**Sai_UPPs：サイアpps**」に決定しました。

※Sai・・・Saitama、彩の国

※UPPs・・・University(大学),Prefecture(県),Professionals(職能団体)

★職能団体との意見交換会（Sai_UPPs）の活動概略

年度	回(月)	意見交換会のテーマ	備考
2018	1回(6月)	埼玉県の連携力の高い専門職の人材育成の推進についてAll Saitama シームレスな連携力育成を目指した取組の在り方	
	2回(11月)	「連携」に関する教育事業の現状 今、必要な連携力育成のための方策及び実施上の課題	
2019	3回(5月)	ワークショップ共同開催のテーマ、規模等の検討	
	4回(11月)	来年度この集まりやsaipeを活用して連携力を高めるために 「やってみたいこと」と「できそうなこと」	
2020	5回(12月)	令和3年度のsaipeと各職能団体の活動について ※5月はコロナ禍で中止、オンライン開催の開始	IPWカフェ開始
2021	6回(5月)	具体的な取り組みイメージの共有	
	7回(12月)	saipeと職能団体で取り組む企画（連携企画） 「多職種が参加する、多職種で取り組む企画」	連携企画開始
2022	8回(5月)	4つの連携企画の協働の形を考える	
	9回(12月)	キャラ化ワークショップを体験する	
2023	10回(5月)	“連携力”のコンピテンシーについて理解を深める	
	11回(12月)	意見交換会の“ふり返し”と会の名称を考える（その1）	
2024	12回(5月)	意見交換会の名称を考える（その2）	“Sai_UPPs”決定
	13回(12月)	連携できるひとつってどんなひとつ？（コンピテンシーワークショップの試行）	※対面開催復活

◆Sai_UPPsで行う連携企画（第7・8回にて）

- ①専門職のキャラ化ワークショップ（手法の開発と実施）
- ②埼玉県内の連携現場の取材
- ③連携コンピテンシーの理解を深めるワークショップ
- ④saipe版事例スコープ
- ⑤IPWカフェ（ミニレクチャー＋少人数でおしゃべり）の継続

2025年度「職能団体との意見交換会（Sai_UPPs）」報告

【2025年度の活動の概要】

2025年度も、埼玉県内の職能団体と4大学による意見交換会「Sai_UPPs」を計2回開催しました。

5月の第14回（オンライン開催）では、「**Sai_UPPsの取り組みを埼玉県内の連携力育成にどのように活かすか**」をテーマに議論しました。定例のOARR（今日の目的・目標、進行、役割、お約束）の共有の後、アイスブレイクを行い、Saipeの活動の全体像を改めて共有しました。その上で、Sai_UPPsとしての4つの企画（キャラ化ワークショップ、県内の連携現場取材、連携コンピテンシーを深めるワークショップ、事例スコープ）の取り組み状況の報告が行われました。

次に、意見交換に移り、まず、参加者や所属団体の「連携力育成や連携の推進を目指して実施または参加した取り組み（団体、個人、過去、現在を含む）」について、4、5人で7つのグループに分かれて共有しました。その後、Sai_UPPsの経緯や取り組みを共有し、これらを踏まえて「Sai_UPPsの取り組みを個人的、団体として取り入れる・活かすとしたら？」について、再びグループに分かれて意見交換を行いました。ここでは、**多職種の視点を取り入れた「リアルな症例」**や**共有教材の開発**、**学生の職能団体訪問による次世代育成**、**地域ケア会議での連携ワーク**など、具体的かつ多角的な提案がなされました。また、大学との共同研究や心理的安全性の確保を通じ、実務現場の課題解決と学びの連続性を地域全体で支える仕組み作りについても活発な議論が交わされました。ここで出たご意見について、SAIPEで改めて整理し、実施可能な取り組みとしてSai_UPPsに報告することとなりました。

12月の第15回（対面開催）では、第14回で出た意見をまとめ、これらの活動を具体化するというテーマで「**新たな取り組みの具体化**」をテーマとしました。通例通り、OARRの共有、Saipeの活動報告の後、意見交換に入りました。第14回の意見をSaipeにて、①教材の開発と学びの仕組み作り、②多職種連携の理解の推進を目指した出前研修会の提供、③職能団体の活動を学生に周知、④交流の場の提供の4つに整理し、各自興味のあるテーマに分かれて、具体的にどのようなことをするのか、はじめの一步として何をするのかを議論しました。①では、3月15日のIPW研修会の参考となる事例が出されたほか、**カードゲーム**などの案が出され、②については、**地域ケア会議後や学会時に出前研修会**を提供することなどが提案され、③では「**Sai_UPPsフェス**」を大学の学園祭などで実施することで盛り上がり、④では既にあった**県内取材企画やIPWカフェも活用**した案が出されました。

【2025年度の実績】

◆第14回意見交換会

日時：2025年5月22日（木） 18:00～ 20:40

場所：Zoom

出席者：医師会（1名）、栄養士会（3名）、介護支援専門員協会（2名）、看護協会（1名）、公認心理師協会（1名）、歯科医師会（1名）、社会福祉士会（1名）、薬剤師会（2名）、理学療法士会（2名）、埼玉県立大学（9名）、埼玉医科大学（9名）、城西大学（6名）、日本工業大学（3名）、埼玉県（2名）

内容：1）開会挨拶、会議のOARR共有、自己紹介
2）saipeと職能団体の活動の報告
3）意見交換会で立案された企画の活動報告
4）意見交換：Sai_UPPsの取り組みを埼玉県内の連携力育成のためにどのように活かすか
5）saipeからの情報提供
6）ふり返り、閉会挨拶

◆第15回意見交換会

日時：2025年12月18日（木） 18:30～ 20:30

場所：大宮ソニックシティ

出席者：医師会（1名）、栄養士会（3名）、介護支援専門員協会（2名）、看護協会（1名）、建築士会（1名）、公認心理師協会（1名）、歯科医師会（1名）、社会福祉士会（1名）、薬剤師会（2名）、理学療法士会（2名）、埼玉県立大学（8名）、埼玉医科大学（4名）、城西大学（4名）、日本工業大学（3名）、埼玉県（2名）

内容：1）開会挨拶、会議のOARR共有、自己紹介
2）saipeと職能団体の活動の報告
3）意見交換会で立案された企画の活動報告
4）意見交換：Sai_UPPsの新たな取り組みを具体的に考えてみよう！
5）saipeからの情報提供
6）ふり返り、閉会挨拶

2. 他職種を理解する「IPWカフェ」

「IPWカフェ」は、様々な職種や立場の方々と気軽に話し合える場が欲しいというニーズに応え、2021年3月から始めたものです。「地域の暮らしを支えたい、豊かにしたい!」という思いの皆さんが職種や立場を超えて出会い、気軽におしゃべりできる場として、年に3~4回のペースで開催しています。IPWカフェで大事にしていることは「気軽に参加できる」ことです。このため、集まりやすい時間帯や形式を模索し、平日夜Zoomにて、1時間で実施するという形に落ち着きました。また、会の進行も、前半は話題提供としてゲストスピーカーからのミニレクチャー、後半は2~3名のグループに分かれてのおしゃべり、最後に全体での質問や感想の共有を基本としつつ、後半もメインルームに残ってゲストスピーカーと進行役のおしゃべりを聞くという、聞くだけ参加もできるようにしています。

★これまでの「IPWカフェ」

<p>「IPWカフェ01」 試行</p> <p>2021年3月29日(月) 12:00~13:00</p> <p>テーマ専門職連携におけるコミュニケーション</p> <p>横山恵子さん (埼玉県立大学) (看護学科)</p>	<p>IPWカフェ 02</p> <p>6月10日(金) 18:30~19:30</p> <p>クアと空間</p> <p>勝木祐仁さん</p>	<p>IPWカフェ 03</p> <p>8月25日(水) 18:30~19:30</p> <p>少かりつけ 産科医の 仕事</p> <p>田中 入さん</p>	<p>IPW カフェ 04</p> <p>10月26日(水) 18:30~19:30</p> <p>「地域は自分から変わっていく」</p> <p>伊藤 衛さん</p>	<p>IPW カフェ 05</p> <p>12月13日(火) 18:00~20:00</p> <p>「地域は自分から変わっていく」</p> <p>田口孝行さん</p>	<p>IPW カフェ 06</p> <p>2022年 2月18日(金) 18:30~19:30</p> <p>Zoomによる オンライン</p> <p>花村温子さん</p>
<p>IPWカフェ 07</p> <p>2022年 4月22日(金) 18:30~19:30</p> <p>Zoomによる オンライン</p> <p>松岡広樹さん</p>	<p>IPWカフェ 08</p> <p>2022年 6月10日(金) 18:30~19:30</p> <p>Zoomによる オンライン</p> <p>武笠 真由美さん</p>	<p>IPWカフェ 09</p> <p>2022年 8月25日(水) 18:30~19:30</p> <p>Zoomによる オンライン</p> <p>米岡裕美さん</p>	<p>IPWカフェ 10</p> <p>2022年 10月26日(水) 18:00~20:00</p> <p>Zoomによる オンライン</p> <p>白石 充さん</p>	<p>IPWカフェ 11</p> <p>2022年 12月13日(火) 18:30~19:30</p> <p>Zoomによる オンライン</p> <p>花村温子さん</p>	<p>IPWカフェ 12</p> <p>2023年 2月22日(水) 18:30~19:30</p> <p>Zoomによる オンライン</p> <p>須田正子さん</p>
<p>IPWカフェ 13</p> <p>2023年 6月22日(木) 18:30~19:30</p> <p>Zoomによる オンライン</p> <p>大久保 菜世さん</p>	<p>IPWカフェ 14</p> <p>2023年 9月7日(木) 18:30~19:30</p> <p>Zoomによる オンライン</p> <p>儀賀理暁さん</p>	<p>IPWカフェ 15</p> <p>2023年 11月27日(月) 18:30~19:30</p> <p>Zoomによる オンライン</p> <p>野口祐子さん</p>	<p>IPWカフェ 16</p> <p>2023年 3月13日(水) 18:30~19:30</p> <p>Zoomによる オンライン</p> <p>奥野真由さん</p>	<p>IPWカフェ 17</p> <p>2024年 6月27日(木) 18:30~19:30</p> <p>Zoomによる オンライン</p> <p>柴田貴美子さん</p>	<p>IPWカフェ 18</p> <p>2024年 11月19日(火) 18:30~19:30</p> <p>Zoomによる オンライン</p> <p>各務初恵さん</p>
<p>IPWカフェ 19</p> <p>2024年 3月3日(月) 18:30~19:30</p> <p>Zoomによる オンライン</p> <p>福嶋克巳さん</p>	<p>IPWカフェ 20</p> <p>2024年 4月7日(木) 20:00~21:00</p> <p>Zoomによる オンライン</p> <p>中里見真紀さん</p>	<p>IPWカフェ 21</p> <p>2024年 8月28日(水) 18:30~19:30</p> <p>Zoomによる オンライン</p> <p>キャラ化WS</p>	<p>IPWカフェ 22</p> <p>2024年 3月25日(水) 18:30~19:30</p> <p>Zoomによる オンライン</p> <p>高橋恵子さん</p>		

2025年度の“IPWカフェ”報告

IPWカフェ20 (2025年4月7日(月) 18:30~19:30) 参加者: 20名

- ・テーマ: 「**管理栄養士養成校におけるアクティブラーニング**」
- ・ミニレクチャー: 中里見真紀さん(所属 城西大学薬学部医療栄養学科)
- ・概要: これまでご自身が携わってきた**行田市や地域企業等と連携したプロジェクトや、がん患者向けメニュー開発**などの実践的な教育活動が紹介され、学生が主体的に学びに向き合う様子がうかがえました。これらの取り組みを通じて、専門知識に加え、コミュニケーション力や多職種連携力、社会人基礎力の向上につながることがわかりました。

【感想】

- ・美味しそうな写真が一杯で、また楽しそうな笑顔も一杯で、アクティブラーニングの素晴らしさが伝わってきました。
- ・**食べることは生きること**につながり、**みなさんの笑顔が食に繋がる**と思いました。

IPWカフェ21 (2025年8月28日(木) 18:30~20:00) 参加者: 26名

- ・テーマ: 「**キャラ化ワークショップ~職種を楽しく深く理解する**」
- ・概要: 特別編として時間を拡大して「**職種を楽しく理解する**」をテーマに、キャラ化ワークショップを実施しました。普段はミニレクチャーの後にブレイクアウトしておしゃべりしますが、今回は、ワークショップの説明を受けたらすぐにブレイクアウトし、各ルームで、キャラ化する職種を決め、その職種の方のお話を聴き、キャラを作っていました。



【感想】

- ・その職種について考え、**改めて感謝の想い等を持つ**ことができた。
- ・自分の職種について客観的に考え、新たな発見があった。
- ・**キャラ化とても面白かったです! 楽しかったです!** またやってみたいです!

IPWカフェ22 (2026年3月25日(水) 18:30~19:30) 参加者: 15名

- ・テーマ: 「**市民と保健医療専門職とのパートナーシップ**」
- ・ミニレクチャー: 高橋恵子さん(所属 埼玉県立大学)
- ・概要: 医療の主人公は誰か? その問いを起点に重ねられた**People-Centered Careの実践と探究の成果の一部**をご紹介します。実践例における市民と専門職の協働の様子、それらの活動から捉えられた**パートナーシップの8要素**が参加者の関心を呼び、質問やコメントが投げかけられました。



【感想】

- ・PCCの取組みについて知ることができ、大変参考になりました。
- ・パートナーシップの8要素は、**様々な場面に置き換えることができ勉強になった。**
- ・パートナーシップの考えをアセスメントやモニタリングに活かしたい。



3. 多職種理解の深化 “キャラ化” ワークショップ手法の開発

●開発経緯

多職種の理解を深める手法としての“キャラ化”ワークショップ手法は、埼玉県内13職能団体との意見交換会（Sai_UPPs）から生まれました。この意見交換会で多職種が参加する企画を検討する中で、お互いのことを知ること、専門職以外にも理解してもらうことに加えて、雑談の重要性が指摘されました。一方で、現職者の中では、職種や分野の間の壁を超えることができ、気軽に実施・参加できるワークショップへの期待が高いことも明らかになりました。このことから、**楽しく気軽に参加でき、かつ職種の理解を深める手法**として、専門職をキャラクター化するワークショップ手法を開発しました。

●目的・趣旨

ワークショップの趣旨は、「**職種の理解を楽しく深める**」ことです。キャラ化の対象となるの職種の特徴、着眼点、大事にしていることなどのイメージを共有することで、楽しく職種の理解を深めることができる。これは、多職種が集まって他の職種の理解を深めることにも、**同じ職種で集まって自分たちの職種の理解を深めることにも活用できると考えております。**

●実施方法

具体的な進行は、大まかには①キャラ化する専門職者に自由に質問し、その職種について語ってもらう、②その話をもとに、キャラシートに、「特徴・性格」や「能力・スキル」、「弱点・困っていること」、「決め台詞」、「キャッチフレーズ」などを記入し、**キャラを作っていく**、というものです。

●企画ブラッシュアップと実施実績

Sai_UPPsの有志が集まって、いくつかのキャラを作ってみるところから始めて手法をブラッシュアップし、その後、大学や学会、FD研修会などで行われるようになってきました。saipeのメンバーが行うだけでなく、過去の**ワークショップの参加者が自分たちで実施する事例**も増えてきました。

★ “キャラ化” ワークシート（様式）

「弱者を助ける正義の忍者」

「体の第一の関所の守り手」

「正しい動きの味方」

M87正運からやってきたあのヒーロー ※ M : Muscle

キャラ化ワークショップ実績：他職種理解篇

時期	主催	形態	参加者	キャラ化した職種
2022.10	Sai_UPPs	有志の会	Web 7	社会福祉士 [忍者]
2022.11	Sai_UPPs	有志の会	Web 6	歯科医師 [弁慶]
2022.12 ~ 2023.2	Sai_UPPs	意見交換会・ 有志の会	Web 6	理学療法士 [正義のヒーロー]
2023.7	saipe	医学教育学会大会 ワークショップ	対面 19	病院救命士、ICUの理学療法士 [七色戦隊]、 臨床工学技士 [命を支えるエンジニア]、 公認心理士 [仙人]、看護師 [かるがも]
2023.11	Sai_UPPs	有志の会	Web 7	薬剤師 [名探偵]
2024.3	千葉大学	亥鼻FDプロジェク ト	Web 13	男性産婦人科医 [パンダ]、助産師 [白魔 術師]、慢性心不全熟練看護師 [あついオ タク]
2024.3	専門学校金沢リハ ビリテーションア カデミー (理学)	ワークショップ (金 城大学:看護・北陸大 学:検査と共催)	対面 11	臨床検査技師
2024.8	北陸大学医療保健 学部關谷ゼミ	ワークショップ (い しかわ多職種連携教 育プロジェクトあい まいぴーとの共催)	対面 29	医師、薬剤師、助産師、保健師
2024.11	saipe	日本保健医療福祉連 携教育学会第17回 学術集会	対面 29	保健師、ケアマネージャー、公認心理士、 視能訓練士、保育所等訪問支援員
2025.3	入間市西武地区地 域包括支援セン ター	ケアマネサロン	対面 49	民生委員・民生児童委員 [みんなの応援団 他]、ケアマネージャー [聖母マリア]、 地域包括支援センター主任介護支援専門員 [ストーリー作家]
2025.7	金沢医大	他大学を招いた医学 部でのIPE授業	対面	薬剤師、臨床工学技士、臨床検査技師、理 学療法士
2025.10	Saipe	第84回日本公衆衛 生学会総会	対面 40	言語聴覚士、栄養士、環境衛生監視員、大 学教員、保健所所長、初期研修医、保健師、 薬剤師

キャラ化ワークショップ実績：自職種理解篇

時期	実施機関	形態	参加者	キャラ化した職種
2022.12	埼玉医科大学	授業	対面・ Web 医学部2年133名、 検査学科1年46名	医師、臨床 検査技師
2023.6 ~	埼玉医科大学	授業	対面 医学部2年生、検 査学科1年生	医師、臨床検査技師
2024.2	首都医校	授業	対面 各学科の1年生が 自職種をキャラ化	救急救命、看護、保健師、理学療法士、 作業療法士、柔道整復師、アスレチック トレーナー、臨床工学技士、介護福祉士
2024.8	埼玉県	保健師 (2年目 /3年目) 研修	対面 9名+FT3名/19 名+FT5名	県勤務の保健師
2025.5	秩父保健所	令和7年度 保 健師人材育成研 修会	対面 43	保健師 (カオナシ、カメレオン、釈迦、 デリバリー、名パイプレイヤー、伴走者、
2025.7	埼玉県	保健師 (3年 目) 研修	対面 99名+FT10名	県・市町村勤務の保健師

2025年度“キャラ化”ワークショップの実践報告

第84回日本公衆衛生学会総会

2025年10月29日（水）～31日（金）

グランシップ（静岡コンベンションアーツセンター・静岡市）

第84回公衆衛生学会総会にて、キャラ化ワークショップを企画・開催しました。柴崎先生が急きょ参加できなくなり、右記のメンバーの他に、当日、会場にたまたま居合わせた県立大学看護の菊池先生も助っ人で加えて開催しました。約40名の参加者、8チームで“キャラ化”を行いました。

◆グループワーク6
10月29日（水） 16:30～18:00 第8会場（910）
専門職キャラ化ワークショップ～各職種の特徴と大切さ、そして面白さを再発見する手法

座長：柴崎 智美（埼玉医科大学）
田口 孝行（埼玉県立大学）
ファシリテーター：長井麻希江（城西大学薬学部薬学科）
北山 聖也（埼玉医科大学）
米岡 裕美（埼玉医科大学）
阪下 竜也（埼玉県福祉監査課）
井上 直子（埼玉医科大学）

参加者からは、「楽しかった」、「専門職の知らない裏話が聞けた」、「是非、帰ってから実施してみたい」など非常に好評でした。運営側も楽しくできました。

米岡先生からの本企画の主旨説明

グループワーク開始 時間経過とともに白熱！

見学の方もお誘いして、グループワーク！



2G「栄養士」のキャラ化紹介

7G「保健師」のキャラ化紹介

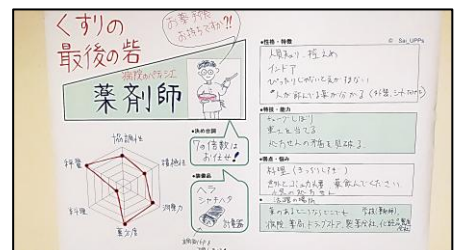
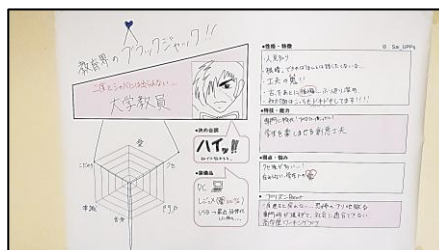
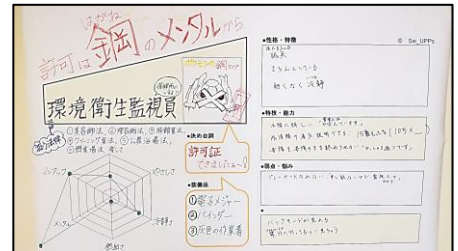
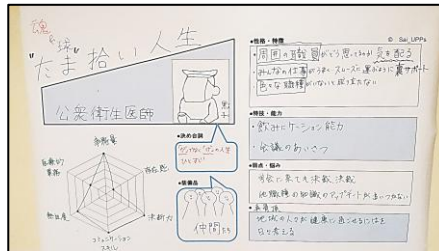
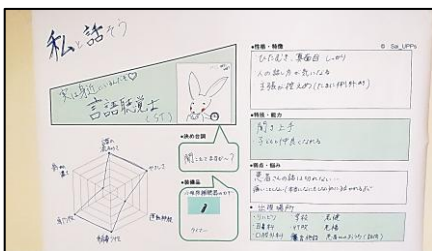
Bの発表が早めに終わり、みんなで5G「保健所所長」のキャラ化紹介



- 1G キャラ化（言語聴覚士）
- 4G キャラ化（大学教員）
- 7G キャラ化（保健師）

- 2G キャラ化（栄養士）
- 5G キャラ化（保健所所長）
- 8G キャラ化（薬剤師）

- 3G キャラ化（環境衛生監視員）
- 6G キャラ化（初期研修医）



4. IPW（多職種連携）ワークショップ（緩和ケアIPW研修会）

1) 例年の緩和ケアIPW（多職種連携）研修会の特徴

IPWでは、利用者の“**よりよい生活**”を目指して、保健医療福祉の関係者（含家族など）が連携と協働して援助活動を行います。すなわち、利用者の“生活目標”を目指して、その実現の障害となっている問題を解決するプロセスをたどります。問題解決のプロセスをチームでたどるので「**チーム形成プロセス**」が同時に動くこととなります。さらに、実践現場の各専門職は、所属施設内での別の組織や外部機関等に同時に属していることも多いため、組織間・機関間の地域連携も同時に行われなければ、よりよい支援に到達できません。保健医療福祉の**実践の場の連携と協働**は、利用者の問題解決プロセスと、関係者のチーム形成のプロセス、さらに、**関係者が所属する組織や機関間、地域連携のプロセスが影響しあっています**。

本研修会は、埼玉県内に勤務する保健医療福祉専門職種（医師、歯科医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、リハビリ専門職、認定心理士、社会福祉士、介護福祉士、介護支援専門員等）を対象に、**実践の場の連携と協働を緩和ケアに特化して体験的かつ意図的に学ぶ**ことを主眼を置いた研修会です。

※2020年度からはCOVID19のためオンラインツールを活用した研修会方法も開発

2) IPW（多職種連携）ワークショップ 実施方法

<チーム活動における課題>

- (1) 現職者一人一人が経験した困難な事例や問題を共有する
- (2) 1に対して共感、対策などをチームで話し合い、緩和ケア模擬事例事例に組み込んでいく
- (3) 作成した事例についてケアプランを考える
- (4) リフレクション
- (5) 発表

<連携する際のキーワード（意図的なチームディスカッションのヒント）>

- ①「**尊重**」：利用者・チームメンバー等の尊重、尊重の表現方法とその状況等
- ②「**理解**」：利用者の人物像・状況・課題・思い等の理解、メンバーの理解
- ③「**共有**」：利用者の人物像・状況・課題・思い等の理解の共有
- ④「**合意形成**」：利用者の課題・支援方針・計画の合意形成
- ⑤その他：リフレクション、**柔軟な専門性の発揮**等

◆ 研修会タイムスケジュール（例）

時間	内容
10:00～10:05	1) 開会
10:05～10:25	2) IPWワークショップの進め方
10:25～10:40	3) アイスブレイク
10:40～12:00	4) IPW演習 ・対象者情報の収集・整理・共有、対象者課題（問題）等の抽出・共有 ・対象者課題（問題）に対応した支援方針・計画（案）の検討
13:00～14:30	4) IPW演習（午前の続き）
14:40～15:00	5) リフレクション（チームごとに実施）
15:00～15:55	6) 報告会、学びの共有 ・発表（各チーム15分間） ・ディスカッションを含む
15:55～16:00	7) 閉会※アンケートを記入して終了



2025年度 IPW（多職種連携）ワークショップ（緩和ケアIPW研修会）報告

日時：2026年3月15日（日） 9：00～16：00

会場：埼玉県総合医局機構 地域医療教育センター

参加者：9名（歯科医師、薬剤師、管理栄養士、介護支援専門員、埼玉県職員）
+ 9名（SAIPE：医師、薬剤師、看護師、保健師、作業療法士、医学教育）

ファシリテータ：Aチーム（小糸:城西大学）、Bチーム（村田:城西大学）
Cチーム（古屋:城西大学）

運営・進行：小糸・村田（城西大学）、吉村・善生（埼玉県立大学）

運営事務：春原・奈良（城西大学）、小暮（埼玉県立大学）、長島（埼玉医科大学）、
三本松（日本工業大学）

【2025年度の状況概略】

2025年度IPWワークショップは、第14回意見交換会（2025年5月・Zoom）で提案された「**緩和ケアIPW研修会の新しい模擬患者事例づくり**」を受け、Sai_UPPs（SAIPE+埼玉県職能団体）の企画として実施されました。今回の事例づくりでは、既存の模擬患者事例を基盤に、**より実践的な多職種連携の教材作成**を目指しました。ワークショップでは、多職種混合6名の3チームが、事前課題として挙げられた**日々の業務で直面する問題点や工夫を共有**し、教材に盛り込む内容を協議しました。新たに加える事柄は、**各職種の専門性が自然に生かされ、矛盾のない事例**となるよう配慮しながら再構成しました。当初はケアプラン検討までを目標としていましたが、時間の関係で事例作成に留まったものの、3チームの発表はいずれも特色があり、有意義な内容となりました。参加者からは、事例づくりを通じて**多職種の視点や職種間の“当たり前”の違いを共有できた**との意見が多く、協働で事例を構築する意義が再確認されました。また、地域で実施している多職種カンファレンスへの応用を示唆する声や、事例検討を継続することで学びが深まるとの提案も寄せられました。今回作成した事例は未完成であり、今後の完成に向けた進め方を検討する必要があります。総じて、ワークショップを通じて当初の目的である「**多職種連携の要点理解と他職種視点を想像し関わる力の向上**」は一定程度達成されたと考えられます。

◆実施後アンケート（2025年度抜粋）

	評定値平均(1～5)
「患者（利用者）・地域資源の理解と課題解決」の実践方法を意図的に確認する	4.27
「チームメンバーの専門性と多様性を相互理解」する態度を意図的に確認する	4.55
「チーム形成プロセスと協働」の実践方法を意図的に確認する	4.64
「組織や機関間・地域連携プロセス」の実践方法を意図的に確認する	4.45
ワークショップを振り返り、意味づけ、自己の課題および所属施設における課題および解決策を見出すためのリフレクションが意図的にできる	4.73
ワークショップの満足度	4.82

自由記述 本会で得られたこと等

患者にどのような背景があり何を望むか、どのようなことができるか、どのような資源が不足しているのかなど多職種で考えることができ有意義なグループワークになりました。

多職種で事例を作り上げる機会は貴重でした。続きを一緒に完成させたいと強く感じました。

症例について考えるのではなく、症例を作るという形式の方が多職種の視点を把握しやすいと感じた

資格毎の当たり前が他の職種が知らない事もあるので、情報を共有できる場が身近にあると良いと思いました。

地域で多職種でカンファレンスをしています。医師、歯科医師、薬剤師、看護師、ケアマネ、栄養士など事例検討もしているので、参考にさせていただきます。

事例検討を何回か繰り返してもいいと思います



V “地域における連携力育成事業

日本工業大学と宮代町との連携“認知症まちづくり”活動

日本工業大学が所在する宮代町を舞台として、専門職のみならず、行政、民間企業、地域住民も対象とした地域における連携力育成に向けた取り組みを、主に日工大のsaipeメンバーが担当して進めてきました。

2017年に取り組みを始めとして、2021年からは定常的な活動として、**認知症の方とご家族が安心して暮らせる地域づくり**（認知症まちづくり）に関する取り組みを行っています。職種や立場を超えて多くの人々が当事者意識を持ち、目的を共有しやすいことを旨としてテーマ設定をします。2040年までに認知症の方の割合が高くなることを見込まれており、**買い物や、交通機関の利用など日々の営みを認知症のある方がスムーズに行える物理的・社会的環境整備**は、サービスの提供者、他のサービス利用者にとっても重要なことである。**その環境整備を行政、民間、NPO団体、町内で暮らす人の協働で行い、その過程での「連携力」の醸成**を目指しています。その「連携力」は、地域で暮らす全ての人々が享受し得るものと考えています。

具体的には、宮代町役場、宮代町社会福祉協議会、宮代町立図書館、日工大saipeメンバーが月1回を基本として定例ミーティングを行いながら、「**認知症まちづくり**」に関する取り組みを企画・実施しています。

1. 2025年度 日工大と宮代町との連携“認知症まちづくり”活動報告

●定例ミーティング

前半の第1～7回（4月～10月）は2つの「認知症にフレンドリーな社会に向けた合同展」の企画検討と振り返りを行い、後半の第8～10回（11月～3月）は、今年度の事業から発展する来年度計画について検討を行った。後半は特に、合同展vol.8（紺野氏の講演会と展示会）を受けて、宮代版スローショッピングの実現に向けた活動や、認知症の方の社会参加に取り組む企業等の交流会の実施に向けてミーティングを行った。

●認知症にフレンドリーな社会に向けた合同展 vol.7

9月12日（金）～10月13日（月） 会場：宮代町立図書館

2022年度から開催している、**宮代町立図書館**を会場とした、パネル展示、講演会、映画上映会等を行う行事である。認知症と「**認知症まちづくり**」に関する理解を深め、**広める**ことを目的としている。展示は認知症・認知症予防・認知症の方の暮らしの支援などに関するもののほか、認知症の方の社会参加支援を行っている団体や企業の取り組みに関するものを中心とし、身近な高齢者との思い出を描いた宮代の小学生による絵手紙コーナーもあり、多世代の多くの来訪者があった。さらに、9月23日（火）には特別映画会「ピア～まちをつなぐもの～」の上映、9月28日（日）には「回想サロンin図書館」、10月13日（月）には、日工大の勝木祐仁先生を講師とした講演会「暮らしの記憶を紡ぎ合う～宮代発「まちをアルバムにする」とそこから生まれた取り組みの紹介～」を開催した。

●認知症にフレンドリーな社会に向けた合同展 vol.8「宮代で共に暮らす展示会・講演会」

9月21日（日） 会場：コミュニティセンター進修館 大ホール

宮代町で認知症の人の社会参加を支援している企業のパネル展示を行うとともに、岩手県滝沢市で「認知症になっても住みよいまちづくりプロジェクト」として、スーパーマーケットで**スローショッピングを提案した紺野敏昭氏（医師）**を講師として迎え、買物支援など、誰もが安心して地域で暮らせるヒントについて講演会を行った。その後、「おしゃべり会」として、**日工大の学生がファシリテーター**となってチームに別れ、講演会で学んだことを振り返った。オレンジカフェとして会場を提供しているタリーズコーヒー（東武動物公園駅）によるコーヒータイムや認知症の人が困っているときに対応する「見守り協力店」で扱う商品の福引などお楽しみ会もあり、会場は大変盛り上がった。

《今後の取り組み》今年度は、「認知症まちづくり」への理解の普及から一歩進め、まずは「買物」という場面で、地域でどんな取組みが可能かをみんなで考え、実際に実現するための方策を検討することが出来た。**今後は、当事者、家族、民間事業者、地域住民などとの連携を深め、より一層「認知症まちづくり」の取り組みを展開していきたい。**



VI “学生交流・共同学習支援”

リレー・フォー・ライフジャパン川越（RFLJ川越）

saipeでは、学生交流・共同学習支援の取組の1つとして、2015年度より、がん制圧に向けた世界共通のチャリティーイベント「**リレー・フォー・ライフ・ジャパン川越（RFLJ川越）**」に**4大学チーム**として参加しています。2020年度から2022年度は新型コロナウイルス感染症の影響によりオンラインでの活動となりましたが、2023年度からは現地での活動が再開されています。

4大学チームでは、これまでに「カフェ」や「スタンプラリー」などの企画を行いながら、泊まりがけで夜通し、**4大学の学生が（教員も含めて）交流して楽しんでいます。**

1. 2025年度 RFLJ川越2025 活動報告

【2025年度 活動概要】

○活動日時、場所：

- ・RFLオリエンテーション：2025年7月30日（月）18:00～19:30（Zoom）
- ・第1回活動（打ち合せ、学生交流）：2025年8月 8日（月）17:00～19:00（Zoom）
- ・第2回活動（打ち合せ、学生交流）：2025年8月27日（水）18:00～20:00（ウェスタ川越）
- ・第3回活動（メッセージ班の活動）：2025年9月22日（月）10:00～13:00（埼玉県立大学）
- ・第4回活動（班ごとの前日準備）：2025年9月26日（金） 9:00～17:00（城西大学）
- ・RFLJ2025川越当日：2025年9月27日（土）9:30～20:00～28日（日）9:30～11:30（蓮馨寺）

○参加者：学生24名、OBOG：3名、教職員（saipeメンバー）11名

- ・埼玉県立大学：学生7名（看護学科1年1名、3年1名、理学療法学科1年1名、2年1名、社会福祉こども学科社会福祉学専攻2年1名、健康開発学科検査技術科専攻1年1名、2年1名）、教員1名
- ・埼玉医科大学：学生3名（医学部1年2名、保健医療学部理学療法学科3年1名）、教員3名、職員1名
- ・城西大学：学生12名（薬学科2年2名、薬科学科3年1名、医療栄養学科1年5名、3年2名、薬学研究科医療栄養学専攻2年1名薬学研究科薬科学専攻博士後期課程1年1名）、教員5名、職員1名
- ・埼玉県：職員1名（福祉部福祉監査課）

○活動内容：2024年度に引き続き、**saipeメンバー**で埼玉医科大学の産婦人科医である**高橋幸子先生**監修のもと、**男性に向けたHPVワクチンの情報提供**リーフレットおよびWebサイト（<https://saipe-saitama-hpv-vaccine-information.my.canva.site/hpv>）を作成した。この他、がんの予防や対応に関するクイズを用いた**すごろく**、がん患者さんに向けた**メッセージ**の募集と掲示、**夜越えリレーウォーク**などを行った。

参加した学生からは、「他大学の学生との交流があり、**新たな視点を得ることができた。**」「学んできたことや環境の違い、学年の違いなどにより**観点が異なることを学んだ。**」「お互いの意見を受け入れながら方向性を決めていく中で**一体感を感じた。**」「今後もこの活動を続けたいと思った。」などの感想が寄せられた。

これらのことから、本取組を通して**参加学生一人一人ががん患者さんと向き合い、患者さんに対して自分ができることについて考え、立案・実行する良い機会**となったこと、また**他大学・他学科の学生が連携しながら一つの目的を共有して活動**したことで**達成感と自信**に繋がったこと、がうかがえた。



図 今回作成したリーフレット・Webサイトとリレー・フォー・ライフジャパン川越2025の様子

トークイベント

共同学習事業の取り組みの1つとして、地域における豊かな暮らしの実現に向けて、医療・福祉・建築やその連携について新たなビジョンを提示する実践者をゲストに迎え、**ゲストによるショートレクチャー**を題材に4大学の学生が意見交換を行うトークイベントを行っています。

講師の先生方のレクチャーとグループワークを通じて、**暮らしの中にケアがあること**、そのための**アプローチ、建築・空間デザインの可能性**などについて、4大学の学生が**ともに学び合う**機会として企画しました。

3. 2025年度“トークイベント”活動報告

タイトル：まちの居場所を訪ね・考える ～みんなの保健室 陽だまり 訪問・体験～

日時：2026年3月17日（火）13:00～15:40（予定では15:10）

会場：みんなの保健室 陽だまり（埼玉県・草加市）

講師：服部 満生子さん（一般社団法人 みんなの保健室陽だまり代表）

参加者：学生 10名 埼玉県立大学 看護学科 3年生 1名 / 2年生 1名 / 1年生 2名
日本工業大学 建築学科 3年生 6名

教員 2名 埼玉県立大学 看護学科 1名 / 日本工業大学 建築学科 1名

運営：勝木祐仁・三本松陽子（日本工業大学）

内容：みんなの保健室陽だまりは、2015年に看護師7人がつくった「みんなの保健室をつくる会」を起点として開かれた「まちの居場所」です。子どもから高齢者まで、誰もが気軽に立ち寄り、生きがいを見つけ、相談できる場所として運営されています。「**医療・教育・福祉の重なり合う拠点を、様々な枠を超え住民のチームで創る**」という陽だまりのビジョンと実践からは、**暮らしを支える連携と「まちの居場所」について多くの学びを得られると期待し、ご協力をお願いしました。**

当日は、以下の通り、代表の服部さんから陽だまりの概要説明をしていただいた後、普段の活動に参加させていただき、最後に、参加者から、感想や学びについて発表してもらいました。

1. 「みんなの保健室 陽だまり」概要説明・・・ 代表 服部 満生子さん

2. 陽だまり3月企画「いのち・生まれる ～出産の場 むかし そしていま～」参加

①お話「出産の場 / むかし そしていま」

②DVD上映：『愛されるために生まれてきた』

③お話「いまのお産 家族と迎える、この上ない幸せ」 ④語り合い

企画担当：小松美穂子先生・島田智織先生（茨城県立医療大学）

当日の様子と参加者の感想

当初は、「陽だまり」において服部さんからお話を伺い、その内容を踏まえて学生間でディスカッションを行うことを計画していました。しかし、服部さんのご提案を受け、地域の方々に混ざり、普段の「陽だまり」を体験する企画としました。当日はまず「陽だまり」の概要についてご説明いただいた後、地域の方々とともに「いのち・生まれる」というテーマでお話を伺い、映画を視聴しました。学生を含め、そこに集まった**10代～80代の人たちが、それぞれの感想や経験を自然に語り、それを受け入れ合う場ができていました。**学生にとって、そこに身を置き、その場の一部になることが何より意義深かったことと想像されます。参加学生のアンケートには、「私たち学生ではわからない視点や経験を**年代関係なくお話して下さる場**がとても貴重だと感じました」「**皆さんが自分の意見をはっきりと伝え、自分らしく生活している様子**が印象的であり、「**居場所**」が人に与える**安心感や自己肯定感の大きさ**を実感した」などの感想が寄せられました。参加学生は、枠を外して自由に、自分らしく生きるための拠点としての「陽だまり」の真価に触れることができたものと思われま



「いのち・生まれる」のお話



参加学生による感想の発表



自然に語り出し語り合う参加者

Ⅶ 2025年度 4大学におけるIPEトピック

1 埼玉県立大学

1) 2025年度埼玉県立大学 履修証明プログラム 専門職連携を学ぶ講座

本学は開学以来、専門領域を超えた連携により利用者ニーズに応える人材育成に取り組んできた。近年、地域包括ケアシステムの進展に伴い専門職連携（IPW）の重要性が再認識され、2014年度より現場従事者を対象とした研修講座を開講した。その後、継続的な内容の充実を図り、2022年度にはファシリテータ研修を新設、既存の研修と合わせ体系化を進めた。さらに2023年度からは受講者ニーズを踏まえ、「専門職連携を学ぶ講座」として再編し、履修証明プログラムとして修了証を発行している。本学のIPEの知見を活かし、現場で活用可能な実践力の向上を支援している。2025年度は以下の6講座を開講した。

講座名	開催日程	受講者数
チームビルディング研修	5月11日	19
チームワーク研修	5月25日	22
ファシリテータ研修	6月7日、6月28日、7月12日	14
IPWを促進するF-SOAP研修	6月20日、8月7日、9月26日	37
多職種チームによる実地実習（専門職連携実習：IPW実習）	9月13日	10
多職種チームによる事例検討	9月27日、10月18日	3



【チームワーク研修】グループワーク成果物



【多職種チームによる事例検討】グループワークの様子

2) 令和6年度人材育成推進事業費補助金「彩の国Komvuxプラットフォーム」事業 2025年度埼玉県立大学講座

埼玉大学・埼玉県立大学・ものづくり大学が中心となり、2025年に文部科学省の事業採択を受けて「彩の国komvuxプラットフォーム」を設立した。本枠組みでは、産学官金が協働し、人材育成ニーズに基づくリカレント教育プログラムを一体的に展開し、実務に直結する学びの実装を目指している。本年度は、保健・医療・福祉事業所の経営者・管理者を対象として、専門職連携を基盤とした実践的マネジメント能力の向上を目的とする講座（オンデマンド形式）を企画・実施した。

3) 2025年度高等教育開発センター・IPEセンター 共同FD

日時：2026年3月19日

テーマ：IPE科目の発展的で持続可能な運営に向けた優先課題と次年度の方向性

基調講演講師：埼玉医科大学 医学教育学 柴崎 智美 教授

本学の高等教育開発センターとIPEセンター共同によるFDを実施した。IPE科目の発展的かつ持続可能な運営に向け、2025年度の成果と課題を整理し、次年度の方向性を共有することを目的とした。基調講演とパネルディスカッションを通じて、優先課題や授業準備に必要な条件、短期的改善策を具体化し、教育実践の継続的改善と担当者間の共通理解の形成を図った。

2 埼玉医科大学

埼玉医科大学は、大学間連携共同教育推進事業の補助期間に導入した彩の国連携科目を、2016年度のカリキュラム改定に併せて、医学部1～4年生の「**地域医療とチーム医療**」ユニットをはじめとして、**1・2年「臨床入門」、3・4年「導入クリニカル・クラークシップ**」などに配置して、運営してきました。2022年度には文部科学省ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業に選定され、学内では念願の**医学部保健医療学部合同IPE**を、また群馬大学とは1年生全員が参加した共同学習をスタートしました。また、**Sai_UPPsで開発したキャラ化を用いて**医学部保健医療学部の一部学生間で**自職種・他職種を理解する取組み**を進めています。saipeで培った連携力を育成するカリキュラムの内容、運営だけでなく、教員が身につけた**他大学、多領域と連携するスキル**を十二分に発揮して**新たな連携を進めています**。

(1) 医学部保健医療学部合同IPE (2022年度開始)

医学部保健医療学部合同IPEは、**2学部5学科（医学、看護、臨床検査、臨床工学、理学療法）の3年生全員が参加する実習**です。ヒヤリ・ハット事例を用いた根本原因分析（RCA：Root Cause Analysis）と、**暮らしを支える連携を学ぶための高齢女性の支援計画を立案すること**を課題として、地域基盤型IPEを展開しています。2025年度には、教員が事例毎に学生チームをファシリテートできる様に教材を整え、IPEの質の向上に努めました。

両学部の教員が事前の準備からともに取り組む形を模索しつつ、学部の壁は超えにくい状況が続いていました。両学部横断的カリキュラム検討委員会のもとに**専門職連携教育検討ワーキング**を設置し、毎年の合同IPEのみならず、中長期的に埼玉医科大学の両学部のIPEを検討することとなりました。



2025年度合同IPE開会式

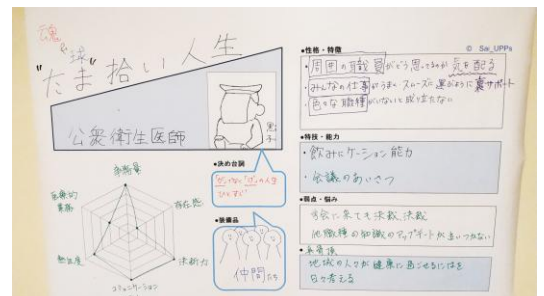
RCAをテーマとしたワーク

高齢者の支援をテーマとしたワーク

(2) 連携教育の深化に向けての取組み

4大学で取り組んで来たSaipeの取組みと成果を、長くこの事業の担当者をしてきた柴崎教授による様々な場で多くの関係者に発信する機会を得ました。第18回日本保健医療福祉専門職連携学会では、これまでの成果と**埼玉で展開されているSaipeの取組みの横展開**についてを紹介し、令和7年度「医療・介護・福祉の連携に関する研修会」では、県内で連携する専門職を対象に、**医療・介護・福祉の現場で役に立つ未来の専門職の育成—大学を超えて連携力を育てる—**をテーマに講演を行いました。さらに、第18回埼玉プライマリ・ケア連合研究会では、「**埼玉で育むプライマリ・ケアのマインド**」と題して、彩の国連携力育成プロジェクトをカリキュラムに落とし込んだ成果を、そして、埼玉県立大学のFDでも学外から見た埼玉県立大学のIPEの特徴について紹介し、**連携教育の深化を確認**する機会となりました。

また、米岡准教授を中心に、キャラ化を用いた研修も活発に行われています。**2025年度は埼玉県保健師の研修が継続して実施されたほか、IPWカフェなどでもワークショップを開催**し、さらに第84回日本公衆衛生学会学術集会（静岡市）でもキャラ化ワークショップを開催しました。卒前、卒後における連携スキルの向上に取り組んでいます。



公衆衛生学会キャラ化ワークショップ

3 城西大学

城西大学は、建学の精神「学問による人間形成」から社会に有為な人材を育成するとともに、人類文化の発展に寄与することを理念にしています。特に、2012年より薬学部を中心としたsaipeの活動は、城西大学がアクティブラーニングを発展させる中で課題解決型学習（PBL）を取り込む大きな機会を得ることができました。そこで得られた連携力の重要性は、2025年度までに、以下の3つの教育基盤を作り、文系や理系の垣根を超えた総合大学としての新しい教育体制を生みました。

全学共通基盤科目 協創力体験演習（2024年始動）

これは、5つの学部学生が入学直後から学部・学科だけでなく文化・国籍の垣根を越えて、多様な人々の言葉に耳を傾け、自分の考えを伝えながら交流することによってお互いを理解し、尊重し皆と協力して新しい価値を創り出していこうとする力「協創力」を身に着ける科目です。昨今の激しく変化する社会には、解決しなければならない課題は無数に存在しています。その求められる力を本学は、大学全体で「協創力」によって育てています。



図 協創力体験演習の様子

薬学部薬学科 コミュニケーション体験演習（2018年～）

薬学科4年生のPBLのコミュニケーション体験演習（必修科目）は、授業のテーマである「自分ごと化 城西・薬学」として各プロジェクトチームが活動してきました。この授業では、生活者の多様な考え方を理解した上で、地域社会に貢献できるようになることを目指し、より実践的なコミュニケーション能力を培い、対象者に寄り添い、課題解決に向けた方策や活動を考える能力を養うことを目標としています。現在では、薬学科の専門科目の総合的な科目に位置づけられ、学生の城西らしさを育てる科目になりました。



がん患者支援活動



小学生の薬剤師体験活動



埼玉県薬剤師会との活動

図 コミュニケーション体験演習による様々なアクティブラーニングの様子

地域連携センターの設立とその歩み（2013年～）

地域連携において、本センターは、2013年に地域志向で教育・研究・社会貢献を目指す「城西大学連携教育・研究推進プロジェクト（J-CLIP）」を通じて活動方針を立て、2021年4月には地域連携センター事務室が新設しました。現在では、小川町、越生町、坂戸市、鶴ヶ島市、ときがわ町、東秩父村、日高市、毛呂山町と連携するJ-CLIPや埼玉東上地域大学教育プラットフォーム（TJUP）などの活動を積極的に行っています。

学生や医療従事者教育において、本センターは、薬学部薬学科の学生教育だけでなく現職者の連携教育に関する模擬患者育成にも注力し、質の高い医療従事者（薬剤師）育成に貢献しています。



模擬患者の養成



模擬患者養成の支援



学生教育の様子

図 地域連携センターの活動

薬学部における多職種連携教育のための教員教育（2025年度 教員3名に実施）

学内外における連携教育を推進するために4大学連携科目のIPW実習の見学を通じ、ファシリテートのスキルやマインドなどを教育し、その経験を学生教育に活かしています（右：感想抜粋）。

向学心あふれる学生と指導教員に恵まれた素晴らしい体験でした。学生が、切磋琢磨して一人の患者の幸せを思い、チームとなっていた過程は感動的でした。

職場や環境にとらわれず自由な発想で他職種とひとりの患者さんについてじっくり考えることは、将来の地域包括ケアで活躍する薬剤師としては是非学んでほしい科目と感じました。

実際の医療現場にて多職種を志す学生達が共通に持っている医療人としての熱意や患者さんへの思いに直接触れることができ、本実習の教育的有用性を実感いたしました。

4 日本工業大学

「彩の国連携科目」のうち「IPW実習」は4大学合同で行うが、その他は、4大学共有の学びの要素を持つ各大学独自の科目として実施されている。ここでは「**ヒューマンケア論**」に該当する本学の科目を紹介する。また、SAIPEの取り組みと関連する、本学による**地域連携の活動**について報告する。

●「ヒューマンケアと生活空間」

「ヒューマンケアと生活空間」は彩の国連携科目の「ヒューマンケア論」に該当する本学の授業である。1年次の全員が履修する必修科目であり、生・老・病・死・障がいなどのテーマに基づく具体的な事例から、ケアを必要とする人やその暮らしに関わる様々な人の思い、その人たちと向き合う自分について考えられるようになることを目的としている。

本年度は、四テーマで構成し、一テーマごとにビデオ講義またはゲスト講師による講義の二つの講義と、グループワークによるリフレクションの三部構成とし、テーマごとの理解を深め、これを四回繰り返し、学生のリフレクション力を高めることを目指した。

学生のふり返りとレポートから、社会への関心、人と人のつながりの重要性、支援する側とされる側の対等性、相手への配慮の必要性などの気づきと学びがあったことが示唆された。繰り返し実施したリフレクションでは、参加の姿勢、他者の意見からの学び、視点の広がりなどが得られたと見受けられた。さらに授業での学びを今後の学生生活にも生かしたいという希望や、学生生活の基盤となる授業と学生が位置付けていることも示された。



最終回のグループワーク発表

授業プログラム

回	テーマ	方法
1	ガイダンス /	ビデオ講義
2		ビデオ講義
3	認知症	ビデオ講義
4		リフレクション
5		ゲスト講義
6	生・生命	ビデオ講義
7		リフレクション
8		ゲスト講義
9	ケアと生活環境	ゲスト講義
10		リフレクション
11		ゲスト講義
12	地域連携	ゲスト講義
13		リフレクション
14	全体リフレクション	

●ゆっくりおしゃべり食事会 (3/26、6/20、9/19、12/22)

「ゆっくりおしゃべり食事会」は、**学生の企画で行う大学近隣の高齢の方と学生との交流会**である。日工大に隣接する住宅団地は約50年前に開発されたもので、現在高齢化率約50%、宮代町の中でも高齢化が進み、一人暮らしや認知症の方も増えている。野口研究室の学生が、認知症の方の地域活動の実態を調査したことがきっかけで、**外出や交流の機会の創出のために2024年度から**この会を始めることになった。学生が考えたのは、どんな人でも参加でき、緩やかにつながる自然で無理のない居場所を作ることである。地域の高齢の方には**学生との交流が大変好評**で、2025年度は、新4年生に引き継いで計4回実施した。会場は本学に4カ所ある**学生食堂**のうちの2カ所で、**参加者は回を重ねるごとに増え**、近隣のお一人暮らしの高齢者を中心に20~30人、学生10数人、教職員、町役場職員、社協職員など40~50人である。12月にはクリスマスプレゼント交換などのお楽しみ会も実施した(右写真)。2026年度以降、複数の研究室の学生で企画し、継続していけるよう検討している。



●福祉機器展「UniWave2025in埼玉・宮代」での発表

11月8日(土)~9日(日) 会場:日工大5号館7階

「ゆっくりおしゃべり食事会」で高齢の方々からうかがった日常の悩み事が**学生の卒業研究**につながった。多数の人が「転倒」「防犯」「緊急時の連絡」を心配していることが分ったため、その解決策について調査等を行った。そして、日工大で開催された**福祉機器展で発表**する機会を得て、**宮代町の高齢の方々に情報提供**することが出来た(右のポスター)。

UniWave2025 in 埼玉・宮代

開催: 日本工業大学5号館 日時: 2025年11月8日(土)~9日(日) 10時~16時

【7層 展示ブース】

日本工業大学建築学科野口祐子研究室×白石工務店

野口研究室の4年生が卒業研究で、宮代町のシニアのお一人暮らしの方に配慮をお考えしたことがきっかけでこの展示が生まれました!

自宅の心配事として、罹致の方が「転倒」「防犯」「緊急時の連絡」をあげました。今回は、その解決策をご紹介し、近所の高齢者の助成に立ちたいと書かれています。3つのテーマに対し、ご自宅やご家族が簡単にできるものから、専門業者による本格的なものまで、様々な例をご紹介します。

※展示: (このほか色々紹介します)

廊下用 (左端)

手すり (左端)

階段の取付と手すりの取付 (右の端)

手すり (右の端)

防犯

鍵で開くことができる防犯ドアプレート付

L00L 防犯サッシ・高強度窓格子

ALSOK の防犯カメラ

緊急時の連絡

Shikoku 防犯カメラ

ちかく 手すりにも繋がるカメラ (防犯カメラ)

ALSOK の防犯カメラ

●日本工業大学建築学科野口研究室 白石工務店
 生活環境デザインセンター 展示ブース管理 〒360-0181 宮代町手塚1843 TEL: 0120-42-1825

Ⅶ 2025年度 学術等活動の実績報告

● 学会発表

1) 日本保健医療福祉連携教育学会第18回学術集会（品川区：10月26日）

「埼玉医科大学における地域基盤型専門職連携教育の実践」

小池啓子, 柴崎智美, 金田光平, 杉浦由佳, 佐藤寛栄, 石橋敬一郎, 杉山智江, 井上直子, 米岡裕美, 森 茂久（埼玉医科大学）

2) 日本保健医療福祉連携教育学会第18回学術集会（品川区：10月26日）

「学部横断専門職連携演習に参加した学生の学習の短期的効果の検討」

金田光平, 柴崎智美, 小池啓子, 米岡裕美, 杉浦由佳, 清水夏生, 梅澤奈菜, 大野美佐子, 是村利幸, 井上直子（埼玉医科大学）

● 講演

1) 令和7年度 医療・介護・福祉の連携に関する研修会（さいたま市：10月23日）

「医療・介護・福祉の現場で役に立つ未来の専門職の育成 一大学を超えて連携力を育てる」

講師：柴崎智美（埼玉医科大学）

2) 第18回 埼玉プライマリ・ケア連合研究会（さいたま市：11月21日）

「埼玉で育むプライマリ・ケアのマインド」

講師：柴崎智美（埼玉医科大学）

3) 2025年度高等教育開発センター・IPEセンター共同FD研修会（越谷市：3月18日）

「IPE 科目の発展的で持続可能な運営に向けた優先課題と次年度の方向性 専門職連携教育の最新動向と今後の課題」

講師：柴崎智美（埼玉医科大学）

● シンポジウム

1) 日本保健医療福祉連携教育学会第18回学術集会（品川区：10月26日）

シンポジウム1 「多彩なIPEのカタチを知ろう」

「彩の国連携力育成プロジェクトの発展と現在地」

シンポジスト：柴崎智美（埼玉医科大学）

● ワークショップ

1) 第84回日本公衆衛生学会総会（2025.10.29～31:静岡市）

グループワーク6

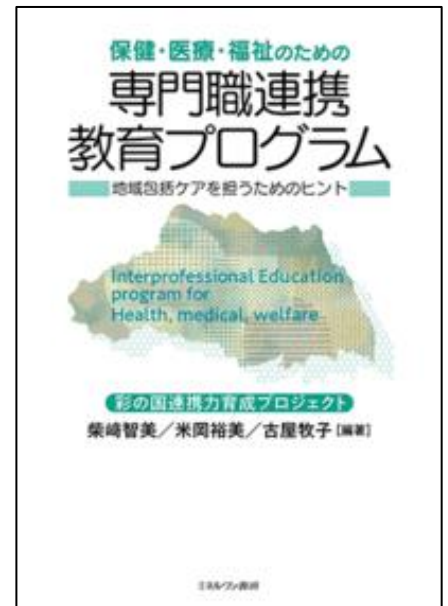
「専門職キャラ化ワークショップ～各職種の特徴と大切さ、そして面白さを再発見する手法～」

座長：柴崎智美（埼玉医科大学）、田口孝行（埼玉県立大学）

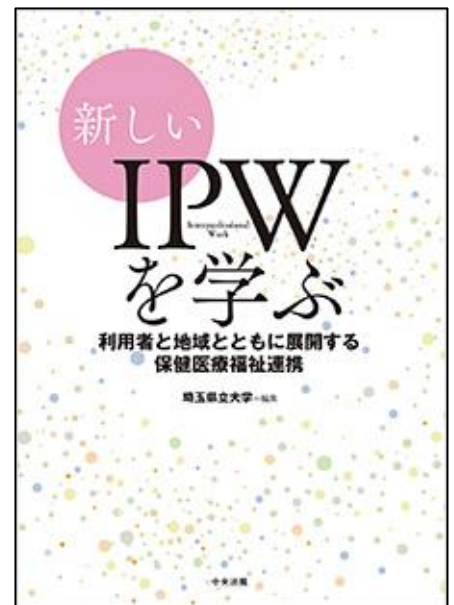
ファシリテータ：長井麻希江（城西大学）、北山聖也（埼玉医科大学）、米岡裕美（埼玉医科大学）、阪下竜也（埼玉県）、井上直子（埼玉医科大学）

★ 書籍（教科書）

- 1) 「保健・医療・福祉のための専門職連携教育プログラム」
第1版2冊増刷（ISBN：9784623085538）
柴崎智美，古屋牧子，米岡裕美 編，ミネルヴァ書房，2025



- 2) 「新しいIPWを学ぶ—利用者地域とともに展開する 保健医療福祉連携」
(ISBN：978-4-8058-8464-5)
埼玉県立大学（朝日雅也、國澤尚子、田口孝行 編集）.
中央法規，2022





< Sai-UPPs登録 職能団体（2025年度現在） > ※ 50音順

※ (<https://>) ホームページURL

埼玉県医師会 (<https://www.saitama.med.or.jp/>)

埼玉県栄養士会 (<https://www.saitamaken-eiyoushikai.or.jp/>)

埼玉県介護支援専門員協会 (<https://saitama-cm.com/>)

埼玉県看護協会 (<https://www.nurse-saitama.jp/>)

埼玉建築士会 (<https://www.ksaitama.or.jp/>)

埼玉県公認心理師協会 (<https://saccp.jp/>)

埼玉県歯科医師会 (<https://www.saitamada.or.jp/>)

埼玉県社会福祉士会 (<https://saitama1717csw.jp/>)

埼玉県薬剤師会 (<https://saiyaku.or.jp/>)

埼玉県理学療法士会 (<https://saitama-pt.or.jp/>)

※ Sai…Saitama、彩の国

※ UPPs…University（大学）、Prefecture（県）、Professionals（職能団体）

2025年度 彩の国連携力育成プロジェクト (saipe)

(<https://www.saipe.jp/>)

活動報告書

発行日 2026年5月

編集担当 埼玉県立大学

企画・発行 埼玉県立大学 埼玉医科大学 城西大学 日本工業大学 埼玉県

代表校連絡先：埼玉県立大学 専門職連携教育研修センター

〒343-8540 埼玉県越谷市三野宮820
